

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
基礎							
10	教職課程の主要な用語に対して、該当する説明文を、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・理解度確認のテストを解く。	用語に対して、意味や定義を正しく選択できる。	・テキスト	無し
教員免許状取得に関する前提知識							
20	科目の分類(必修・選択必修・選択・随意)と説明文を、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、科目の分類と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト	無し
30	『教職課程履修の手引』を見ながら、正式履修・教育実習に進むための前提科目と、有資格判定の時期を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、前提科目・判定時期と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	無し
40	『学生便覧』から、課程認定を受けているコースとゼミの情報を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
50	『学生便覧』を見ながら、教職課程履修者が履修できるゼミを正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.40	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、教職課程履修者が履修可能なゼミと、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
60	『教職課程履修の手引』を見ながら、同一名称・類似名称の科目の中から、課程認定の対象・対象外を判別できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、課程認定の対象の科目・対象外の科目と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	『教職課程の手引』は全20ページで、その内4ページが課程認定を受けている科目の表になっている。ページを少しめくだけで見つかるため、『学生便覧』(350ページ以上ある)のように該当箇所を探す練習をする必要は無い。
70	『教職課程の手引』を見ながら、教員免許状(中学・高校の両方)取得の要件を満たすケースと満たさないケースを判別できる。	知的技能	No.10,20,30,40,50,60	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、下位目標で学習した事項を組み合わせた判断の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、教員免許状取得に必要な要素と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・教職課程履修の手引(冊子) ・学生便覧(冊子)	本学は、中学・高校の両方の教員免許状を取得する方針で指導している。そのため、片方だけ取得するケースは、順調でない学生への対処以外では発生しない。
履修登録に関する前提知識							
80	『学生便覧』から、CAP制の適用条件を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習/作業)	テスト	使用物	備考
90	『学生便覧』を見ながら、CAP制の対象・対象外を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.80	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、CAP制の対象・対象外と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
100	『学生便覧』から、卒業単位に算入される教職科目を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
110	『学生便覧』を見ながら、卒業単位への算入の対象・対象外を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.100	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、卒業単位への算入対象・対象外と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
120	『学生便覧』から、履修取消の対象外科目を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
130	履修取消不可、CAP制適用、卒業単位算入の組み合わせから、履修の優先度付けができる。	知的技能	No.90,110,120	【学習】 ・設問を解きながら、下位目標で学習した事項を組み合わせた判断・回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、各科目の履修の優先度と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子) ・学生便覧(冊子)	無し
140	科目の種類ごとに、履修登録時期と開講時期を何も見ないで正確に答えられる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、科目の種類ごとの履修登録時期・開講時期と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト	無し

学内ポータルサイトに関する前提知識

150	学内ポータルサイトから、各科目の開講期・曜日・時限と、学生が履修登録した科目を調べられる。	知的技能	無し	【作業】 ・テキストを読む。 ・マニュアルを参照し、必要な操作を確認する。 ・正しく操作できているか確認するためのテストを解く。	1. 指定された科目を学内ポータルサイトのシラバス機能で検索し、開講期・曜日・時限を正しく答えられる(記入できる) 2. 学内ポータルサイトの代行ログイン機能を使用し、指定された学生の「履修確認」画面を表示できる	・テキスト ・学内ポータルサイト ・操作マニュアル	無し
-----	---	------	----	---	---	---------------------------------	----

通常の履修指導

160	「履修指導シート」を使用しながら、曜日時限まで考慮した、単年度の詳細な履修計画(1年次春学期開始)を作成できる。	知的技能	No.70,130,140,150	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、当該年度に履修すべき科目と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
-----	--	------	-------------------	---	--	--	----

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
170	「履修指導シート」を使用しながら、4年間のおおまかな履修計画(1年次春学期開始)を作成できる。	知的技能	No.160	【学習】 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、次年度以降の各学年で履修すべき科目を正しく答えられる(選択・記入できる)	・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
特殊な履修指導							
180	『教職課程履修の手引』を見ながら、転科後も有効な科目と無効になる科目を正確に判別できる。	知的技能	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、『教職課程履修の手引』の参照と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、修得済科目の転科後の扱いと、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	無し
200	必要な手続・実習とその前提条件から、教員免許状(中学・高校の両方)取得までに最短で何年間必要か計算できる。	知的技能	No.190	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、4年間での教員免許状(中学・高校の両方)取得可否と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	無し
学生の傾向							
190	『教職課程履修の手引』から、学年進行によって発生する手続・実習を探し出せる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『教職課程履修の手引』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された版の『教職課程履修の手引』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	無し
210	必要な手続・実習と履修意欲の変化について、正しい組み合わせを、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.190	【学習】 ・テキストを読む。 ・理解度確認のテストを解く。	学生から質問を受けている状況の中で、履修意欲の低下の原因と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト	無し
220	各学科に固有の事項を、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・理解度確認のテストを解く。	学生から質問を受けている状況の中で、各学科固有の事項と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト	無し
順調でない学生への対応							
230	「高免判定シート」を使用しながら、高等学校教諭免許状の取得要件を満たしているか、正確に判別できる。	知的技能	No.150	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「高免判定シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、高等学校教諭免許状の取得可否と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「高免判定シート」	無し
240	不足している科目だけの履修が可能で、な学校を、「リンク集」を参照しながら答えられる。	知的技能	No.70	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「リンク集」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、不足科目の履修方法と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・「リンク集」	「リンク集」は、科目等履修や通信制で教職科目を開設している学校のホームページが一覧になったものを用意する。

【Step2】履修指導を担当しながらの学習(実際の業務で学ぶ)

区分	記録	状況	ゴール	対処	リソース	備考
A (ジョブ エイドの 想定内)	不要	1年次春学期に履修開始する(orした)学生から履修相談があった。	・各学年の詳細な履修計画と、卒業までの大まかな履修計画を説明できる。	・「履修指導シート」を使いながら説明をする。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト	第1段階で学習した内容(No.160,170)の実践にあたる。最も頻繁に行われ、複雑な内容はないので記録は不要。
	要	1年次春学期以外のタイミングで履修開始したい学生から履修相談があった。	・卒業までの残り期間で教員免許状取得が可能か不可能か判別できる。 ・学生の現状をふまえ、教員免許状取得までの最短の履修計画を説明できる。	・過去の対応記録に類似の事例があるか確認する。 ・「履修指導シート」を使いながら説明をする。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ・対応記録	学年×2(セメスター)の数しかパターンしか存在しないため、それほど複雑ではない。しかし、発生頻度と内容を把握するために記録しておいた方がよい。
	要	留学(or 休学)を希望する学生から履修相談があった。	・留学(or 休学)の時期・期間、修得済単位の状況をふまえ、復学後に最短で教員免許状を取得するための履修計画を説明できる。	・過去の対応記録に類似の事例があるか確認する。 ・「履修指導シート」を使いながら説明をする。 ○留学の詳細が不明な場合は、国際交流推進センターの職員にも協力してもらう。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ・対応記録 ○国際交流推進センター(or 学生部)の職員	発生する時期・期間も修得済単位も学生によって様々なため、非常に複雑になる。予め答えを作っておくことは不可能に近い。発生時には必ず記録し、後に類似の事例が発生した時に参考できるようにしておく必要がある。
	不要	転科した(or する予定の)学生から履修相談があった。	・修得済科目が転科後に有効か無効か判定した上で、転科後に最短で教員免許状を取得するための履修計画を説明できる。	・「履修指導シート」を使いながら説明をする。 ○転科に関してわからないことがある場合は、教務の転科担当者や各学科事務室にも協力してもらう。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ○教務部の職員 ○各学科事務室の副手	転科は6パターンしか存在せず、内容も複雑ではない。
	不要	教員免許状取得の要件を完全に満たせずに卒業しそうな学生がいる。	・高等学校教諭免許状の取得要件だけでも満たしているか判定できる。 ・卒業後も不足科目を修得すれば教員免許状の取得が可能であることを説明できる。	・「高免判定シート」を使い、取得要件を満たしているか判定する。 ・科目等履修や通信制で教職科目を開設している大学を紹介する。	・「高免判定シート」 ・科目等履修や通信制で教職科目を開設している学校へのリンク集 ○他大学の教職課程担当者(facebook「教育職員免許法の研究」)	高免判定までは本学が扱える範囲内だが、卒業後の不足科目修得は本学が扱える範囲ではない。これは、発想を転換すると、同業者のコミュニティから情報を得られることを意味する。そちらに必ず熟練者がいるため、助けを求めて良いだろう。
	不要	編入学生(他大学で教職課程を履修していない)から履修相談があった。	・3年次春学期から履修を開始するとどうなるか説明できる。	・「履修指導シート」を使いながら説明をする。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト	編入学前に教職課程科目を修得していない場合は、3年次春学期から履修開始した場合と同じになる。一律の対応になるので、記録は不要。
B (ジョブ エイドの 想定外)	要	編入学生(他大学で教職課程を履修していた)から履修相談があった。	・前の大学で修得済の各科目の単位認定可否を回答できる。 ・単位認定の状況をふまえ、教員免許状取得までの最短の履修計画を説明できる。	・過去の対応記録に類似の事例があるか確認する。 ○教職課程主任に報告し、教職課程委員会および教務委員会で単位認定の審議をしてもらう。 ・単位認定の結果が判明したら、「履修指導シート」を使いながら説明をする。	○教職課程主任 ○教務委員会担当者 ・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ・対応記録	委員会審議の後に初めて対応可能になるため、決定前に安易に対応しない。編入学者からの成績証明書受領と過去の記録の確認が済んだら、教職課程主任とともに対応を検討する。過去の事例は、単位認定の検討時にも大いに参考になるため、必ず記録する。
	不要	履修登録のためのシステム操作がわからないという相談があった。	・履修登録完了までの必要操作を正確に答えられる。	○わからなければ他の職員に助けを求め、学生への説明を一緒に聞く。	○教務部の職員 ○教務経験者の職員	この操作を誰も知らない状況になることはない。マニュアル参照よりも、実際の操作を見ながら覚える方がよい。他の職員の学生対応の様子を学ぶこともできる。
	不要	必修科目同士の時間割が重複しており、卒業時まで履修できないという相談があった。	・重複を避けるための学内調整ができる。	○教職課程主任に報告し、開設学科とともに重複を避ける調整・対応をする。	○教職課程主任 ○各学科の教務委員と副手	曜日時限が毎年変わるため、稀に発生することがある。具体的な対応は、教職課程と各学科で相談しながら決める。
	不要	経済的な問題を抱え、今後の学習に支障のある学生がいる。	・教職課程の履修を継続するように、経済的な負担を軽減する提案ができる。	○奨学金の担当者に助けを求め、学生への説明を一緒に聞く。	○学生部の職員	個別の救済はできないため、奨学金の制度を用いることになる。学生個人のプライバシーに関わるため記録しない。
	不要	人間関係の問題を抱え、今後の学習に支障のある学生がいる。	・教職課程の履修を継続するように、人間関係の負担を軽減する提案ができる。	○カウンセリングルームに相談するよう、学生に促す。	○カウンセラー(臨床心理士)	機微に触れるため、プロに対応を任せる。学生個人のプライバシーに関わるため記録しない。

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
基礎							
10	教職課程の主要な用語に対して、該当する説明文を、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・理解度確認のテストを解く。	用語に対して、意味や定義を正しく選択できる。	・テキスト	無し
教員免許状取得に関する前提知識							
20	科目の分類(必修・選択必修・選択・随意)と説明文を、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、科目の分類と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト	無し
30	『教職課程履修の手引』を見ながら、正式履修・教育実習に進むための前提科目と、有資格判定の時期を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、前提科目・判定時期と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	無し
40	『学生便覧』から、課程認定を受けているコースとゼミの情報を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
50	『学生便覧』を見ながら、教職課程履修者が履修できるゼミを正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.40	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、教職課程履修者が履修可能なゼミと、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
60	『教職課程履修の手引』を見ながら、同一名称・類似名称の科目の中から、課程認定の対象・対象外を判別できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、課程認定の対象の科目・対象外の科目と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子)	『教職課程の手引』は全20ページで、その内4ページが課程認定を受けている科目の表になっている。ページを少しめくただけで見つかるため、『学生便覧』(350ページ以上ある)のように該当箇所を探す練習をする必要は無い。
70	『教職課程の手引』を見ながら、教員免許状(中学・高校の両方)取得の要件を満たすケースと満たさないケースを判別できる。	知的技能	No.10,20,30,40,50,60	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、下位目標で学習した事項を組み合わせた判断の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、教員免許状取得に必要な要素と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・教職課程履修の手引(冊子) ・学生便覧(冊子)	本学は、中学・高校の両方の教員免許状を取得する方針で指導している。そのため、片方だけ取得するケースは、順調でない学生への対処以外では発生しない。
履修登録に関する前提知識							
80	『学生便覧』から、CAP制の適用条件を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
90	『学生便覧』を見ながら、CAP制の対象・対象外を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.80	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、CAP制の対象・対象外と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
100	『学生便覧』から、卒業単位に算入される教職科目を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
110	『学生便覧』を見ながら、卒業単位への算入の対象・対象外を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.100	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、卒業単位への算入対象・対象外と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
120	『学生便覧』から、履修取消の対象外科目を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
130	履修取消不可、CAP制適用、卒業単位算入の組み合わせから、履修の優先度付けができる。	知的技能	No.90,110,120	【学習】 ・設問を解きながら、下位目標で学習した事項を組み合わせた判断・回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、各科目の履修の優先度と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子) ・学生便覧(冊子)	無し
140	科目の種類ごとに、履修登録時期と開講時期を何も見ないで正確に答えられる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、科目の種類ごとの履修登録時期・開講時期と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト	無し

学内ポータルサイトに関する前提知識

150	学内ポータルサイトから、各科目の開講期・曜日・時限と、学生が履修登録した科目を調べられる。	知的技能	無し	【作業】 ・テキストを読む。 ・マニュアルを参照し、必要な操作を確認する。 ・正しく操作できているか確認するためのテストを解く。	1. 指定された科目を学内ポータルサイトのシラバス機能で検索し、開講期・曜日・時限を正しく答えられる(記入できる) 2. 学内ポータルサイトの代行ログイン機能を使用し、指定された学生の「履修確認」画面を表示できる	・テキスト ・学内ポータルサイト ・操作マニュアル	無し
-----	---	------	----	---	---	---------------------------------	----

通常の履修指導

160	「履修指導シート」を使用しながら、曜日時限まで考慮した、単年度の詳細な履修計画(1年次春学期開始)を作成できる。	知的技能	No.70,130,140,150	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、当該年度に履修すべき科目と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
-----	--	------	-------------------	---	--	--	----

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
170	「履修指導シート」を使用しながら、4年間のおおまかな履修計画(1年次春学期開始)を作成できる。	知的技能	No.160	【学習】 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、次年度以降の各学年で履修すべき科目を正しく答えられる(選択・記入できる)	・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
特殊な履修指導							
180	「履修指導シート」を使用しながら、転科後の履修計画の変更ができる。	知的技能	No.170	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、修得済科目の転科後の扱い、当該年度に履修すべき科目、次年度以降に履修すべき科目、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
181	「教職課程履修パターン」と「履修指導シート」を使用しながら、変則的な履修計画を作成できる。	知的技能	No..170	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「教職課程履修パターン」「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、4年間での教員免許状(中学・高校の両方)取得可否と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「教職課程履修パターン」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
教職課程の実習							
190	『教職課程履修の手引』から、学年進行によって発生する手続・実習を探し出せる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『教職課程履修の手引』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された版の『教職課程履修の手引』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子) ・「実習関係Q&A」	『教職課程履修の手引』の確認と併せて、『実習関係Q&A』についても説明する。
順調でない学生への対応							
230	「高免判定シート」を使用しながら、高等学校教諭免許状の取得要件を満たしているか、正確に判別できる。	知的技能	No.70,150	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「高免判定シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、高等学校教諭免許状の取得可否と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「高免判定シート」	無し
231	「高免判定シート」と「履修指導シート」を使用しながら、高免のみの取得を目指した履修計画の変更ができる。	知的技能	No.230	【学習】 ・設問を解きながら、「高免判定シート」「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、高免のみに必要な科目と、適切な説明を正しく答えられる(選択・記入できる)	・「高免判定シート」 ・「履修指導シート」	無し
240	「卒業後の修得方法」を見ながら、不足している科目の補い方を説明できる。	知的技能	No.230	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「卒業後の修得方法」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、不足科目の履修方法と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト ・「卒業後の修得方法」	無し

【Step2】履修指導を担当しながらの学習（実際の業務で学ぶ）

区分	記録	状況	ゴール	対処	リソース	備考	
A （ジョブ エイドの 想定内）	不要	1年次春学期に履修開始する(or した)学生から履修相談があっ た。	・各学年の詳細な履修計画と、卒業までの 大まかな履修計画を説明できる。	・「履修指導シート」を使いながら説明をする。 ○「履修指導シート」を使いながら説明をする。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト	第1段階で学習した内容(No.160,170)の実践にあたる。 最も頻繁に行われ、複雑な内容はないので記録は不要。	
	要	1年次春学期以外のタイミングで 履修開始したい学生から履修相 談があった。	・卒業までの残り期間で教員免許状取得 が可能か不可能か判別できる。 ・学生の現状をふまえ、教員免許状取得ま での最短の履修計画を説明できる。	・過去の対応記録に類似の事例があるか 確認する。 ・「履修指導シート」を使いながら説明をする。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ・対応記録	学年×2(セメスター)の数しかパターンしか存在しないため、それほど複雑ではない。しかし、発生頻度と内容を把握するために記録しておいた方が良い。	
	要	留学(or 休学)を希望する学生から 履修相談があった。	・留学(or 休学)の時期・期間、修得済単 位の状況をふまえ、復学後に最短で教員 免許状を取得するための履修計画を説明 できる。	・過去の対応記録に類似の事例があるか 確認する。 ・「履修指導シート」を使いながら説明をする。 ○留学の詳細が不明な場合は、国際交流 推進センターの職員にも協力してもらう。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ・対応記録 ○国際交流推進センター(or 学生 部)の職員	発生する時期・期間も修得済単位も学生によって 様々なため、非常に複雑になる。予め答えを作っ ておくことは不可能に近い。 発生時には必ず記録し、後に類似の事例が発生した 時に参考できるようにしておく必要がある。	
	不要	転科した(or する予定の)学生から 履修相談があった。	・修得済科目が転科後に有効か無効か判 定した上で、転科後に最短で教員免許状 を取得するための履修計画を説明できる。	・「履修指導シート」を使いながら説明をする。 ○転科に関してわからないことがある場合 は、教務の転科担当者や各学科事務室に も協力してもらう。	・「履修指導シート」 ・学内ポータルサイト ○教務部の職員 ○各学科事務室の副手	転科は6パターンしか存在せず、内容も複雑ではな い。	
	不要	教員免許状取得の要件を完 満たせずに卒業しそうな学生 がいる。	当シートに記載の内容は、「相談対応早見表」に整理して参照可能にした。				も範囲内だが、卒業後の 範囲ではない。これ 者のコミュニティから情 そちらに必ず熟練者が だろう。
	不要	編入学生(他大学で教職課 履修していない)から履修相 あった。					修得していない場合は、 た場合と同じになる。一 不要。
B （ジョブ エイドの 想定外）	要	編入学生(他大学で教職課 履修していた)から履修相談 あった。		る。 ・単位認定の結果が判明したら、「履修指 導シート」を使いながら説明をする。	・対応記録	過去の事例は、単位認定の検討時にも大いに参考 になるため、必ず記録する。	
	不要	履修登録のためのシステム操作 がわからないという相談があっ た。	・履修登録完了までの必要操作を正確に 答えられる。	○わからなければ他の職員に助けを求 め、学生への説明を一緒に聞く。	○教務部の職員 ○教務経験者の職員	この操作を誰も知らない状況になることはない。マ ニュアル参照よりも、実際の操作を見ながら覚える方 が良い。他の職員の学生対応の様子を学ぶこともで きる。	
	不要	必修科目同士の時間割が重複し ており、卒業時まで履修できな いという相談があった。	・重複を避けるための学内調整ができる。	○教職課程主任に報告し、開設学科ととも に重複を避ける調整・対応をする。	○教職課程主任 ○各学科の教務委員と副手	曜日時限が毎年変わるため、稀に発生することがあ る。具体的な対応は、教職課程と各学科で相談しな がら決める。	
	不要	経済的な問題を抱え、今後の学 習に支障のある学生がいる。	・教職課程の履修を継続するように、経済 的な負担を軽減する提案ができる。	○奨学金の担当者に助けを求め、学生へ の説明を一緒に聞く。	○学生部の職員	個別の救済はできないため、奨学金の制度を用いる ことになる。学生個人のプライバシーに関わるため記 録しない。	
	不要	人間関係の問題を抱え、今後の 学習に支障のある学生がいる。	・教職課程の履修を継続するように、人間 関係の負担を軽減する提案ができる。	○カウンセリングルームに相談するよう、 学生に促す。	○カウンセラー(臨床心理士)	機微に触れるため、プロに対応を任せる。学生個人 のプライバシーに関わるため記録しない。	

【Step1】履修指導を担当する前の学習（eラーニング教材で学ぶ）

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
基礎							
10	教職課程の主要な用語に対して、該当する説明文を、何も見ないで正確に選択できる。	言語情報	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・理解度確認のテストを解く。	用語に対して、意味や定義を正しく選択できる。	・テキスト	学習項目から削除した（履修指導に直接関係しない専門用語はできるだけ使用せず、どうしても使用する場合には教材内で説明を添えるようにした）。

教員免許状取得に関する前提知識

20	『教職課程履修の手引』を見ながら、科目の分類（必修・選択必修・選択）と説明文を正確に選択できる。	言語情報 （状況設定問題にする）	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、科目の分類と、正しい説明を答えられる（選択できる）	・テキスト ・教職課程履修の手引（冊子）	『教職課程の手引』は全20ページで、その内4ページが課程認定を受けている科目の表になっている。ページを少しめくだけで見つかるため、『学生便覧』（350ページ以上ある）のように該当箇所を探す練習をする必要は無い。
60 30	『教職課程履修の手引』を見ながら、同一名称・類似名称の科目の中から、課程認定の対象・対象外を選択できる。	言語情報 （状況設定問題にする）	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、課程認定の対象の科目・対象外の科目と、正しい説明を答えられる（選択できる）	・テキスト ・教職課程履修の手引（冊子）	学習順を変更した（No.20から続けた方がスムーズな流れになるため）。
40	『学生便覧』から、課程認定を受けているコースとゼミの情報を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる（記入できる）	・テキスト ・学生便覧（冊子）	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
50	『学生便覧』を見ながら、教職課程履修者が履修できるゼミを正確に選択できる。	言語情報 （状況設定問題にする）	No.40	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、教職課程履修者が履修可能なゼミと、正しい説明を答えられる（選択できる）	・学生便覧（冊子）	無し
100 60	『教職課程履修の手引』を見ながら、教員免許状取得に必要な実習と期間を正確に選択できる。	言語情報 （状況設定問題にする）	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、教員免許状取得に必要な実習と期間と、正しい説明を答えられる（選択できる）	・テキスト ・教職課程履修の手引（冊子） ・「実習関係Q&A」	学習順および内容を変更した（No.70の下位条件とする方が適切なため）。
70	『教職課程の手引』と『学生便覧』を見ながら、教員免許状（中学・高校の両方）取得の要件を満たすケースと満たさないケースを判別できる。	知的技能	No.20,30,40,50,60	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、下位目標で学習した事項を組み合わせた判断の練習をする。	学生の修得済科目一覧を見て、教員免許状（中学・高校の両方）取得の要件を満たしているか判別できる（選択できる）	・教職課程履修の手引（冊子） ・学生便覧（冊子）	本学は、中学・高校の両方の教員免許状を取得する方針で指導している。そのため、片方だけ取得するケースは、順調でない学生への対処以外では発生しない。順調でない学生への対処は、No.230,231,240で学習する。

履修登録に関する前提知識

30 71	『教職課程履修の手引』を見ながら、正式履修・教育実習に進むための前提科目と、有資格判定の時期を正確に選択できる。	言語情報 （状況設定問題にする）	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、前提科目・判定時期と、正しい説明を答えられる（選択できる）	・テキスト ・教職課程履修の手引（冊子）	学習順を変更した（No.130の下位条件とする方が適切なため）。
----------	--	---------------------	----	---	---	-------------------------	----------------------------------

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
80	『学生便覧』から、CAP制の適用条件を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、 『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
90	『学生便覧』を見ながら、CAP制の対象・対象外を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.80	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、CAP制の対象・対象外と、正しい説明を答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
100	『学生便覧』から、卒業単位に算入される教職科目を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、 『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
110	『学生便覧』を見ながら、卒業単位への算入の対象・対象外を正確に選択できる。	言語情報 (状況設定問題にする)	No.100	【学習】 ・設問を解きながら、『学生便覧』の参照と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、卒業単位への算入対象・対象外と、正しい説明を答えられる(選択できる)	・学生便覧(冊子)	無し
120	『学生便覧』から、事前に履修登録される科目を探し出せる。	言語情報	無し	【作業】 ・テキストの指示に従い、 『学生便覧』の内容を確認する。 ・作業の完了を確認するテストを解く。	指定された年度の『学生便覧』から該当箇所を探し、ページ数と記載内容を正しく答えられる(記入できる)	・テキスト ・学生便覧(冊子)	毎年、ページ数や記載が若干変わるため、『学生便覧』の発行後にテストの更新が必要。
130	前提科目、CAP制適用、卒業単位算入、事前登録の組み合わせから、履修の優先度付けができる。	知的技能	No.71,90,110,120	【学習】 ・設問を解きながら、下位目標で学習した事項を組み合わせた判断・回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、各科目の履修の優先度と、正しい説明を答えられる(選択できる)	・テキスト ・教職課程履修の手引(冊子) ・学生便覧(冊子)	無し
140	科目の種類ごとに、履修登録時期と開講時期を何も見ないで正確に答えられる。	言語情報 (状況設定問題にする)	無し	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、テキストの理解度確認と学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、科目の種類ごとの履修登録時期・開講時期と、適切な説明を正しく答えられる(選択できる)	・テキスト	学習項目から削除した(参照できる資料がなかったため、資料を新規作成した)。 Iderからの「資料を参照してはいけない理由が分からなかった」という指摘への対応。

学内ポータルサイトに関する前提知識

150	学内ポータルサイトから、各科目の開講期・曜日・時限と、学生が履修した科目を調べられる。	知的技能	無し	【作業】 ・テキストを読む。 ・マニュアルを参照し、必要な操作を確認する。 ・正しく操作できているか確認するためのテストを解く。	1. 指定された科目を学内ポータルサイトのシラバス機能で検索し、開講期・曜日・時限を正しく答えられる(記入できる) 2. 学内ポータルサイトの代行ログイン機能を使用し、指定された学生の「履修確認」画面を表示できる →教材内では操作手順を述べるのみとし、実際の操作は着任後に行うものとする。	・テキスト ・学内ポータルサイト ・操作マニュアル	学内ポータルサイトの代行ログイン機能に関する部分を削除した(代行ログイン機能は、特定の部署に所属する者が学内のIPアドレスから接続した場合のみ利用可能であることが判明したため)。
-----	---	------	----	---	--	---------------------------------	---

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
通常の履修指導							
160	「履修指導シート」を使用しながら、曜日時限まで考慮した、単年度の詳細な履修計画(1年次春学期開始)作成のアドバイスができる。	知的技能	No.70,130,150	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、当該年度に履修すべき科目と、正しい説明を答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
170	「履修指導シート」を使用しながら、4年間のおおまかな履修計画(1年次春学期開始)作成のアドバイスができる。	知的技能	No.160	【学習】 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、次年度以降の各学年で履修すべき科目を正しく答えられる(選択・記入できる)	・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
特殊な履修指導							
180	「履修指導シート」を使用しながら、転科後の履修計画への変更を提案できる。	知的技能	No.170	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、修得済科目の転科後の扱い、当該年度に履修すべき科目、次年度以降に履修すべき科目、正しい説明を答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
181	「教職課程正式履修登録パターン」と「履修指導シート」を使用しながら、変則的な履修計画作成のアドバイスができる。	知的技能	No..170	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「教職課程正式履修登録パターン」「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、4年間での教員免許状(中学・高校の両方)取得可否と、正しい説明を答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「相談対応早見表」 ・「対応フロー」 ・「教職課程正式履修登録パターン」 ・「履修指導シート」 ・学生便覧(冊子) ・教職課程履修の手引(冊子) ・学内ポータルサイト	無し
順調でない学生への対応							
230	「高免判定シート」を使用しながら、高等学校教諭免許状の取得要件を満たしているか、正確に選択できる。	知的技能	No.70,150	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「高免判定シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、高等学校教諭免許状の取得可否を正しく答えられる(選択・記入できる)	・テキスト ・「高免判定シート」	無し

【Step1】履修指導を担当する前の学習(eラーニング教材で学ぶ)

学習順	ゴール	学習成果の種類	前提知識	活動(学習／作業)	テスト	使用物	備考
231	「高免判定シート」と「履修指導シート」を使用しながら、高免のみの取得を目指した履修計画への変更を提案できる。	知的技能	No.230	【学習】 ・設問を解きながら、「高免判定シート」「履修指導シート」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、高免のみの取得のために履修すべき科目と、正しい説明を答えられる(選択・記入できる)	・「高免判定シート」 ・「履修指導シート」	無し
240	「本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法」を見ながら、卒業時に不足している科目の補い方を説明できる。	知的技能	No.230	【学習】 ・テキストを読む。 ・設問を解きながら、「本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法」の使い方と、学生への回答の練習をする。	学生から質問を受けている状況の中で、不足している科目と、卒業後の修得方法の正しい説明を答えられる(選択できる)	・テキスト ・「本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法」	無し

テストの例 ①

＜学習目標＞

『学生便覧』を見ながら、CAP 制の対象・対象外を正確に選択できる。

状況設定：履修登録の開始日に学生が窓口で相談に来た。『学生便覧』を見ながら対応しよう。

問 1：「1 学期に 24 単位しか登録できないんですよね？」と言っている。何の話だろうか。

- ①単位認定 ②卒業論文 ③GPA ④CAP

問 2：「何で制限があるんですか？ 1 学期にどれだけ履修しても個人の自由なのに。」と質問があった。対応で適切なものはどれか。

- ①「そうだよね。私の頃は制限が無かったから、40 単位くらい履修していたよ。」
②「予習・復習の時間も確保して、授業内容を理解するためだよ。」
③「制約があった方が緊張感のある学生生活ができるからね。」
④「どこの大学も同じようなものだよ。そういう世の中だから。」

問 3：「教職課程科目でこれの対象にならないのは、例えばどれですか？」と質問があった。対応で適切なものはどれか。2 つ選びなさい。

- ①『教職概論』と『教育心理学』です。
②『教育課程論』と『教育相談』です。
③『教育方法・技術』と『生徒・進路指導論』です。
④『教育基礎論』と『教育制度論』です。

(正解) 問 1：④ 問 2：② 問 3：②と③

テストの例 ②

＜学習目標＞

科目の分類（必修・選択必修・選択・随意）と説明文を、何も見ないで正確に選択できる。

状況設定：学生から電話で問合せがあった。あなたの手元には何も資料が無い。

問1：「自分の興味で選んで良い科目の中には、取らなくても良いのと、取らないといけないのがあるって聞きました。取らないといけないのってどれですか？」と言っている。どの科目区分について知りたがっているのだろうか。

- ①必修 ②選択必修 ③選択 ④随意

問2：「その区分の科目名の横に『いずれか1科目』って書いてあるんですが、2科目以上取っても良いんですか？」と質問があった。対応で適切なものはどれか。

- ①「授業担当の先生が良いと言えば大丈夫です。」
②「多い分には問題無いですよ。」
③「1科目しか認定されないのもったいないですね。」
④「2科目以上は履修登録できませんよ。」

問3：「その科目は、何年生の時に取れば良いんですか？」と質問があった。対応で適切なものはどれか。2つ選びなさい。

- ①「もちろん、今すぐですね。早いにこしたことはありません。」
②「卒業までに単位修得できれば大丈夫ですが、なるべく早いうちが安心ですね。」
③「簡単に単位もらえる科目だから、いつでも良いと思いますよ。」
④「配当年次を確認してみましょう。」

(正解) 問1：② 問2：① 問3：②と④

テストの例 ① →課題分析図【90】に該当

＜学習目標＞

『学生便覧』を見ながら、CAP 制の対象・対象外を正確に選択できる。

状況設定：履修登録の開始日に学生が窓口で相談に来た。『学生便覧』を見ながら対応しよう。

問 1：「1 学期に 24 単位しか登録できないんですよね？」と言っている。何の話だろうか。

- ①単位認定 ②卒業論文 ③GPA ④CAP

問 2：「何で制限があるんですか？ 1 学期にどれだけ履修しても個人の自由なのに。」と質問があった。対応で適切なものはどれか。

- ①「そうだよね。私の頃は制限が無かったから、40 単位くらい履修していたよ。」
②「予習・復習の時間も確保して、授業内容を理解するためだよ。」
③「制約があった方が緊張感のある学生生活ができるからね。」
④「どこの大学も同じようなものだよ。そういう世の中だから。」

問 3：「教職課程科目でこれの対象にならないのは、例えばどれですか？」と質問があった。対応で適切なものはどれか。2 つ選びなさい。

- ①『教職概論』と『教育心理学』です。
②『教育課程論』と『教育相談』です。
③『教育方法・技術』と『生徒・進路指導論』です。
④『教育基礎論』と『教育制度論』です。

（正解）問 1：④ 問 2：② 問 3：②と③

テストの例 ② →課題分析図【20】に該当

＜学習目標＞

科目の分類（必修・選択必修・選択・随意）と説明文を、何も見ないで正確に選択できる。

状況設定：A学科の学生から電話で問合せがあった。あなたの手元には何も資料が無い。

問1：「自分の興味で選んで良い科目の中には、取らなくても良いのと、取らないといけないのがあるって聞きました。取らないといけないのってどれですか？」と言っている。どの科目区分について知りたがっているのだろうか。

- ①必修 ②選択必修 ③選択 ④随意

問2：「その区分の科目名の横に『いずれか1科目』って書いてあるんですが、2科目以上取っても良いんですか？」と質問があった。対応で適切なものはどれか。

- ①「授業担当の先生が良いと言えば大丈夫です。」
②「多い分には問題無いですよ。」
③「1科目しか認定されないのもったいないですね。」
④「2科目以上は履修登録できませんよ。」

問3：「その科目は、何年生の時に取れば良いんですか？」と質問があった。対応で適切なものはどれか。2つ選びなさい。

- ①「もちろん、今すぐですね。早いにこしたことはありません。」
②「卒業までに単位修得できれば大丈夫ですが、なるべく早いうちが安心ですね。」
③「簡単に単位もらえる科目だから、いつでも良いと思いますよ。」
④「配当年次を確認してみましょう。」

（正解）問1：② 問2：② 問3：②と④

配当年次														(4年間で卒業しない場合)				修得済	備考
1年次		2年次		3年次		4年次		5年目		6年目									
教職課程に関する科目	教職概論												□	☆正式履修の前提科目 ○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育心理学												□	☆正式履修の前提科目 ○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育基礎論												□	○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育課程論												□	○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育制度論												□						
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
		()科教育法Ⅰ												□	○教育実習の前提科目				
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
		()科教育法Ⅱ												□					
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
		()科教育法Ⅲ												□					
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
		特別支援教育概論												□					
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
		総合的な学習の時間の指導法												□					
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
		生徒・進路指導論												□	○教育実習の前提科目				
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
			()科教育法Ⅳ												□				
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期						
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限						
			道徳教育指導論												□				
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期						
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限						
			特別活動指導論												□				
開講期				開講期		開講期		開講期		開講期		開講期							
曜日・時限				曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							
教育方法・技術													□						
開講期			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
曜日・時限			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
教育相談													□						
開講期			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
曜日・時限			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育実習Ⅰ・Ⅱ												□						
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教職実践演習(中・高)												□						
開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
66条の6科目	日本国憲法												□						
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	スポーツ・健康科学演習Ⅰ or Ⅱ												□	どのクラスでも良い。					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
情報処理Ⅰ or Ⅱ												□	どのクラスでも良いが、クラスの選択は不可能。 ※事前調整科目						
開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
	SPEAKING PRACTICE												□	どのクラスでも良いが、クラスの選択は不可能。 ※C学科のみ1年次配当					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
					介護等体験								□						

		配当年次				(4年間で卒業しない場合)				修得済	備考					
		1年次		2年次		3年次		4年次				5年目		6年目		
教科に関する専門的事項	必修	日本語学Ⅰ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
		日本語学Ⅱ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
		日本語表現法Ⅲ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
		中国文学論Ⅰ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
		中国文学論Ⅱ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
			日本文学論Ⅰ												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
			日本文学論Ⅱ												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
			日本文学論Ⅲ												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
			日本文学論Ⅳ												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
			日本文学論Ⅴ												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
	選択必修		日本文学史Ⅰ												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		□	ちらか片方を修得する必要がある
			日本文学史Ⅱ													
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		□	
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
			伝統文化演習ⅠB(書道)												□	
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期			
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		□	どちらか片方を修得する必要がある。 ※「B」以外のクラスでは、教員免許状の取得要件を満たさない ※事前調整科目
			伝統文化演習ⅡB(書道)													
			開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		□	
			曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
選択		伝統文化論Ⅳ(書)												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		□		
		日本語学Ⅲ														
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		□		
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
		日本文学研究Ⅰ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		□		
		日本文学研究Ⅱ														
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		□		
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
		日本文学研究Ⅲ												□		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期				
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		□		
日本文学研究Ⅳ																
開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		□				
曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限						
日本文学研究Ⅴ												□				
開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期						
曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限						

ちらか片方を修得する必要がある

どちらか片方を修得する必要がある。
※「B」以外のクラスでは、教員免許状の取得要件を満たさない
※事前調整科目

関心に応じて履修すると良い
(必要単位数は、必修と選択必修だけで満たせる)。

開講情報		履修計画						修得済	備考
【 】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
教職課程に関する科目	教職概論							☐	・正式履修の前提科目 ・教育実習の前提科目
	開講期								
	曜日・時限								
	教育課程論							☐	・教育実習の前提科目
	開講期								
	曜日・時限								
	()科教育法Ⅰ							☐	・教育実習の前提科目
	開講期								
	曜日・時限								
	()科教育法Ⅲ							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	生徒・進路指導論							☐	・教育実習の前提科目
	開講期								
	曜日・時限								
	特別支援教育概論							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	道徳教育指導論							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	教育方法・技術							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	教育相談							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	教育心理学							☐	・正式履修の前提科目 ・教育実習の前提科目
	開講期								
	曜日・時限								
	教育制度論							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	教育基礎論							☐	・教育実習の前提科目
	開講期								
	曜日・時限								
	()科教育法Ⅱ							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	総合的な学習の時間の指導法							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	()科教育法Ⅳ							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	特別活動指導論							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	教職実践演習(中・高)							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	教育実習Ⅰ・Ⅱ							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
66条の6科目	日本国憲法							☐	
	開講期								
	曜日・時限								
	SPEAKING PRACTICE							☐	どのクラスでも良いが、クラスの選択は不可能。 ※C学科のみ1年次配当
	開講期 春								
	曜日・時限 (クラス指定)								
	スポーツ・健康科学演習ⅠorⅡ							☐	どのクラスでも良い。
	開講期 春・秋								
	曜日・時限 (多数)								
	情報処理ⅠorⅡ							☐	どのクラスでも良い。
	開講期 春・秋								
	曜日・時限 (事前調整)								
	介護等体験							☐	

		開講情報		履修計画						修得済	備考
		【 】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
ゼミ		日本文化演習 I～IV【 】								☐	
	教科に関する専門的事項	日本語学 I								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本語表現法Ⅲ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学論 I								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学論 II								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学論Ⅲ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学論Ⅳ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学論Ⅴ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本語学Ⅱ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		中国文学論Ⅰ								☐	※隔年開講
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		中国文学論Ⅱ								☐	※隔年開講
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
	必修	日本文学史Ⅰ								☐	どちらか片方を修得する必要がある。
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	どちらか片方を修得する必要がある。
		日本文学史Ⅱ								☐	
		開講期								☐	どちらか片方を修得する必要がある。
		曜日・時限								☐	
		伝統文化演習ⅠB(書道)								☐	どちらか片方を修得する必要がある。
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	※「B」以外のクラスでは、教員免許状の取得要件を満たさない ※事前調整科目
		伝統文化演習ⅡB(書道)								☐	
	選択	開講期								☐	関心に応じて履修すると良い (必要単位数は、必修と選択必修だけで満たせる)。
		曜日・時限								☐	
		伝統文化論Ⅳ(書)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学研究Ⅰ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学研究Ⅱ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学研究Ⅲ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学研究Ⅳ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文学研究Ⅴ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	

		開講情報		履修計画						修得済	備考
		【 】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
ゼミ	教科に関する専門的事項	国際コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ【 】								☐	
		英語学Ⅰ(音声)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		英語学Ⅲ(語彙と表現)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		アメリカ文学論								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		イギリス文学論								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		英語演習ⅠA								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		外国語演習Ⅰ(英語圏文化)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		英語学Ⅱ(文法)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		英語学Ⅳ(英語史)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		英語演習ⅡA								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		時事英語								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		外国語演習Ⅱ(英語圏文化)								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
	選択必修	日本文化発信英語Ⅰ								☐	どちらか片方を修得する必要がある。
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		日本文化発信英語Ⅱ								☐	
	選択	アメリカ文化論Ⅰ								☐	関心に応じて履修すると良い (必要単位数は、必修と選択必修だけで満たせる)。
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		イギリス文化論Ⅰ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		アメリカ文学研究								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		イギリス文学研究								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		アメリカ文化論Ⅱ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	
		イギリス文化論Ⅱ								☐	
		開講期								☐	
		曜日・時限								☐	

		開講情報		履修計画						修得済	備考
		【 】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
教科に関する専門的事項	必修	英語学総論								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語圏文学総論								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		Writing Practice								☐	
		開講期	春								
		曜日・時限(クラス指定)									
		Listening Practice								☐	
		開講期	春・秋								
		曜日・時限(クラス指定)									
		Listening Skills								☐	
		開講期	春・秋								
		曜日・時限(クラス指定)									
		Presentations								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		Newspaper English								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		Writing Skills								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限(クラス指定)									
	選択	英語圏文学研究								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		Cultural Exchange								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅴ								☐	いずれか2科目を修得する必要がある。
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅶ								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅸ								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅺ								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅻ								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅲ								☐	
		開講期									
		曜日・時限									
		英語コミュニケーション特殊演習Ⅳ								☐	
		開講期									
		曜日・時限									

①A～Dの科目を全て修得していること

②Eの科目の中から5科目以上修得していること

E		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
☐ 日本文学史Ⅰ or Ⅱ ※Dでカウントしていない方	☐	☐
☐ 国語科教育法Ⅱ	☐	☐
☐ 国語科教育法Ⅲ	☐	☐
☐ 日本語学Ⅲ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅰ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅱ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅲ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅳ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅴ	☐	☐
☐ 道徳教育指導論	☐	☐
☐ 教育実習Ⅱ	☐	☐

以下の①と②の両方を満たしていれば、高等学校教諭免許状のみの取得が可能です。

①A～Dの科目を全て修得していること

A :「教育実践に関する科目」		
(全学科共通)		
☐ 教育実習Ⅰ ※実習期間2週間 ☐ 教職実践演習(中・高)		
B :「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」		
(全学科共通)		
☐ 日本国憲法 ☐ スポーツ・健康科学演習Ⅰ or Ⅱ ☐ 情報処理Ⅰ or Ⅱ ☐ SPEAKING PRACTICE		
C :「教育の基礎的理解に関する科目」		
および「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」		
(全学科共通)		
☐ 教職概論 ☐ 教育心理学 ☐ 教育基礎論 ☐ 教育課程論 ☐ 教育制度論 ☐ 特別支援教育概論 ☐ 総合的な学習の時間の指導法 ☐ 特別活動指導論 ☐ 教育方法・技術 ☐ 生徒・進路指導論 ☐ 教育相談		
D :「教科及び教科の指導法に関する科目」で必修になっている科目		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
☐ 国語科教育法Ⅰ	☐	☐
☐ 国語科教育法Ⅳ	☐	☐
☐ 日本語学Ⅰ	☐	☐
☐ 日本語学Ⅱ	☐	☐
☐ 日本語表現法Ⅲ	☐	☐
☐ 中国文学論Ⅰ	☐	☐
☐ 中国文学論Ⅱ	☐	☐
☐ 日本文学論Ⅰ	☐	☐
☐ 日本文学論Ⅱ	☐	☐
☐ 日本文学論Ⅲ	☐	☐
☐ 日本文学論Ⅳ	☐	☐
☐ 日本文学論Ⅴ	☐	☐
☐ 日本文学史Ⅰ or Ⅱ	☐	☐

②Eの科目の中から5科目以上修得していること

E :「教科及び教科の指導法に関する科目」で選択になっている科目		
および「大学が独自に設定する科目」として認定される科目		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
☐ 日本文学史Ⅰ or Ⅱ	☐	☐
※Dでカウントしていない方	☐	☐
☐ 国語科教育法Ⅱ	☐	☐
☐ 国語科教育法Ⅲ	☐	☐
☐ 日本語学Ⅲ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅰ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅱ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅲ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅳ	☐	☐
☐ 日本文学研究Ⅴ	☐	☐
☐ 道徳教育指導論	☐	☐
☐ 教育実習Ⅱ	☐	☐

以下の①と②の両方を満たしていれば、高等学校教諭免許状のみの取得が可能です。

①A～Dの科目を全て修得していること

A :「教育実践に関する科目」		
(全学科共通)		
☐ 教育実習Ⅰ ※実習期間2週間 ☐ 教職実践演習(中・高)		
B :「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」		
(全学科共通)		
☐ 日本国憲法 ☐ スポーツ・健康科学演習Ⅰ or Ⅱ ☐ 情報処理Ⅰ or Ⅱ ☐ SPEAKING PRACTICE		
C :「教育の基礎的理解に関する科目」 および「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」		
(全学科共通)		
☐ 教職概論 ☐ 教育心理学 ☐ 教育基礎論 ☐ 教育課程論 ☐ 教育制度論 ☐ 特別支援教育概論 ☐ 総合的な学習の時間の指導法 ☐ 特別活動指導論 ☐ 教育方法・技術 ☐ 生徒・進路指導論 ☐ 教育相談		
D :「教科及び教科の指導法に関する科目」で必修になっている科目		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
☐ 国語科教育法Ⅰ ☐ 国語科教育法Ⅳ ☐ 日本語学Ⅰ ☐ 日本語学Ⅱ ☐ 日本語表現法Ⅲ ☐ 中国文学論Ⅰ ☐ 中国文学論Ⅱ ☐ 日本文学論Ⅰ ☐ 日本文学論Ⅱ ☐ 日本文学論Ⅲ ☐ 日本文学論Ⅳ ☐ 日本文学論Ⅴ ☐ 日本文学史Ⅰ or Ⅱ	☐ 英語科教育法Ⅰ ☐ 英語科教育法Ⅳ ☐ 英語学Ⅰ(音声) ☐ 英語学Ⅱ(文法) ☐ 英語学Ⅲ(語彙と表現) ☐ 英語学Ⅳ(英語史) ☐ アメリカ文学論 ☐ イギリス文学論 ☐ 英語演習ⅠA ☐ 英語演習ⅡA ☐ 時事英語 ☐ 外国語演習Ⅰ(英語圏文化) ☐ 外国語演習Ⅱ(英語圏文化) ☐ 日本文化発信英語Ⅰ or Ⅱ	☐ 英語科教育法Ⅰ ☐ 英語科教育法Ⅳ ☐ 英語学総論 ☐ 英語圏文学総論 ☐ 英語圏文学研究 ☐ Writing Practice ☐ Writing Skills ☐ Listening Practice ☐ Listening Skills ☐ Presentations ☐ Newspaper English ☐ Cultural Exchange

②Eの科目の中から、各学科で必要な数(※)を修得していること

E :「教科及び教科の指導法に関する科目」で選択になっている科目 および「大学が独自に設定する科目」として認定される科目		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
※5科目以上必要	※4科目以上必要	※6科目以上必要
☐ 日本文学史Ⅰ or Ⅱ ※Dでカウントしていない方 ☐ 国語科教育法Ⅱ ☐ 国語科教育法Ⅲ ☐ 日本語学Ⅲ ☐ 日本文学研究Ⅰ ☐ 日本文学研究Ⅱ ☐ 日本文学研究Ⅲ ☐ 日本文学研究Ⅳ ☐ 日本文学研究Ⅴ ☐ 道徳教育指導論 ☐ 教育実習Ⅱ	☐ 日本文化発信英語Ⅰ or Ⅱ ※Dでカウントしていない方 ☐ 英語科教育法Ⅱ ☐ 英語科教育法Ⅲ ☐ アメリカ文学研究 ☐ イギリス文学研究 ☐ アメリカ文化論Ⅰ ☐ アメリカ文化論Ⅱ ☐ イギリス文化論Ⅰ ☐ イギリス文化論Ⅱ ☐ 道徳教育指導論 ☐ 教育実習Ⅱ	☐ 英語科教育法Ⅱ ☐ 英語科教育法Ⅲ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅴ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅵ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅶ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅷ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅸ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅹ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅺ ☐ 英語コミュニケーション特殊演習Ⅻ ☐ 道徳教育指導論 ☐ 教育実習Ⅱ

<練習 1－1>

教職課程正式履修の手続に来た学生から、「履修登録について質問して良いですか？ 教職の科目も他の科目もたくさんあって、どれから履修すれば良いのかわかりません。」という相談がありました。まず、最初にすべきことは何でしょうか？

[選択肢]

- A. ガイダンスで使用した資料を渡す
- B. 学生から学籍番号をきく
- C. ラーニングサポートルームへ行くように促す
- D. 友達と同じようにすれば大丈夫だと伝える

[正解]

- B. 学生から学籍番号をきく

[解説]

回答や行動の前に、学生の状況を正しく認識しなければなりません。学籍番号は、学生の各種情報を調べるためのキーです。

<練習 1－2>

学籍番号を尋ねたところ、「20-361-XXX」だとわかりました。次にすべきことは何でしょうか？

[選択肢]

- A. 学内ポータルサイトで代行ログインする
- B. 学生証を提示させ本人確認をする
- C. 学生に現在の考えを話してもらう
- D. 後ほどメールすると伝える

[正解]

- A. 学内ポータルサイトで代行ログインする

[解説]

学内ポータルサイトの代行ログイン機能は、学生が見ている画面と全く同じものを確認することができます。学生がどのような状況で相談に至ったのか把握するために役立ちます。

＜練習 1－3＞

学内ポータルサイトで代行ログインすると、画面が学生用に切り替わりました。次にすべきことは何でしょうか？

[選択肢]

- A. 「メッセージ転送設定」を開く
- B. 「成績照会」を開く
- C. 「履修登録」を開く
- D. 「施設予約照会」を開く

[正解]

- B. 「成績照会」を開く

[解説]

「成績照会」画面で、学生が修得済の科目を確認できます。履修指導のためには、現時点で修得済の科目を知っておくことが不可欠です。

＜練習 1－4＞

「成績照会」を開くと、学生の状況は下記のとおりでした。次にすべきことは何でしょうか？

【成績照会】（単位修得済の科目）

- ・日本語学Ⅰ
- ・日本語学Ⅱ
- ・日本語表現法ⅢB
- ・日本文学史Ⅱ
- ・日本国憲法
- ・スポーツ・健康科学演習ⅠA
- ・教職概論
- ・教育心理学

※1年次秋学期までに修得した科目が全て表示されている。

[選択肢]

- A. 順調だから大丈夫だと伝える
- B. 「履修指導シート」を使って履修計画をたてる
- C. 「成績照会」画面を印刷し、「履修確認」を開く
- D. 「成績照会」画面を印刷しないで、「履修確認」を開く

[正解]

- C. 「成績照会」画面を印刷し、「履修確認」を開く

【添付資料 5】

〔解説〕

修得済の科目だけでなく、履修登録期間より前に登録が完了している科目も把握しておかなければなりません。「履修確認」画面で確認できます。

「成績照会」画面と「履修確認」画面を同時に表示することはできず、ページ移動を繰り返すのは大変なので、「成績照会」画面は印刷しておきましょう。

＜練習 1－5＞

「履修確認」を開くと、学生の状況は下記のとおりでした。次にすべきことは何でしょうか？

【履修確認】（事前調整科目およびクラス割振の結果）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						SPEAKING PRACTICE P
2 限	伝統文化演 習 I B（書 道）		SPEAKING PRACTICE P			
3 限						
4 限					日本文化基 礎演習Ⅲ Q	
5 限						

集中講義	
------	--

〔選択肢〕

- A. 既に登録されている履修科目が正しいか検証する
- B. 過去の対応事例を参照する
- C. 「履修確認」画面を印刷し、「高免判定シート」を使って履修計画を立てる
- D. 「履修確認」画面を印刷し、「履修指導シート」を使って履修計画を立てる

〔正解〕

- D. 「履修確認」画面を印刷し、「履修指導シート」を使って履修計画を立てる

〔解説〕

必要な情報が揃ったので、「履修指導シート」を使って履修計画を立ててみましょう。「履修確認」画面は時間割表の形になっているので、印刷して履修科目を書き込んでいくと便利です。

【添付資料 5】

<練習 1－6>

「履修指導シート」を使ったところ、今学期に履修すべき科目が明らかになりました。この学生の時間割はどのようになりましたか？

[正解]

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限				日本文学論Ⅲ		SPEAKING PRACTICE P
2 限	伝統文化演習ⅠB（書道）		SPEAKING PRACTICE P			
3 限			日本文学論Ⅰ	日本文学論Ⅳ		
4 限				国語科教育法Ⅰ	日本文化基礎演習ⅢQ	
5 限			中国文学論Ⅰ		生徒・進路指導論	

集中講義	教育課程論
------	-----------------------

[解説]

- ・水曜 2 限は、「日本文学論Ⅱ」と「SPEAKING PRACTICE P」が重なり、「SPEAKING PRACTICE P」が優先されます。
- ・木曜 4 限は、「日本文学論Ⅴ」と「日本文化基礎演習ⅢQ」が重なり、「日本文化基礎演習ⅢQ」が優先されます。
- ・事前調整科目で「情報処理」の申し込みをしていないため履修不可能です。
- ・2 年次以上に配当の教職科目で、この年度に開講されていないものがあります。

よって、この学生が春学期に履修可能な、教員免許状取得に関わる科目は上記のとおりです。これで 18 単位になり、CAP の 24 単位まで 6 単位（3 科目）の余裕があります。

※「SPEAKING PRACTICE」は 2 コマで 2 単位（週 2 回科目）、「教育課程論」は CAP の対象外です。

「日本文学論Ⅱ」、「日本文学論Ⅴ」、「情報処理」は、次年度に忘れずに履修するように伝えましょう。残りの 6 単位は、関心や時間割のバランス応じて好きな科目を履修するように伝えると良いでしょう。

配当年次														(4年間で卒業しない場合)				修得済	備考
1年次		2年次		3年次		4年次		5年目		6年目									
教職課程に関する科目	教職概論												■	☆正式履修の前提科目 ○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育心理学												■	☆正式履修の前提科目 ○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育基礎論												□	○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	集中	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育課程論												□	○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	集中	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	教育制度論												□						
	開講期		開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	月5	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	(国語)科教育法Ⅰ												□	○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	木4	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	(国語)科教育法Ⅱ												□						
	開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	(国語)科教育法Ⅲ												□						
	開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	特別支援教育概論												□						
	開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	総合的な学習の時間の指導法												□						
	開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	生徒・進路指導論												□	○教育実習の前提科目					
	開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期								
曜日・時限		曜日・時限	金5	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
(国語)科教育法Ⅳ												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
道徳教育指導論												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
特別活動指導論												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
教育方法・技術												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
教育相談												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
教育実習Ⅰ・Ⅱ												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
教職実践演習(中・高)												□							
開講期		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
66条の6科目	日本国憲法												■						
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	スポーツ・健康科学演習Ⅰ orⅡ												■	どのクラスでも良い。					
	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期								
	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限								
	情報処理Ⅰ orⅡ												□	どのクラスでも良いが、クラスの選択は不可能。 ※事前調整科目					
開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
SPEAKING PRACTICE												□	どのクラスでも良いが、クラスの選択は不可能。 ※C学科のみ1年次配当						
開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期									
曜日・時限	水2・土1	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限									
介護等体験												□							

【色分けの意味】

・灰色のセル
履修不可能な年次(配当年次以前、もしくはその年次まで持ち越したら4年間で完了が不可能)

・濃い色のセル
その年次から履修可能になる科目

・薄い色のセル
修得せずに持ち越しても大丈夫な年次

シラバスで開講状況を調べて転記し、その年度に履修すべき科目を検討する。
(この例は2年生の履修指導をする場合)

修得済の科目をチェックしておくことで、スケジュールを予防する。また、その科目は検討不要(これから履修することはない)の目印にもなる。

		配当年次				(4年間で卒業しない場合)				修得済	備考						
1年次		2年次		3年次		4年次		5年目				6年目					
教科に関する専門的事項	必修	日本語学Ⅰ												■			
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		日本語学Ⅱ												■			
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		日本語表現法Ⅲ												■			
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		中国文学論Ⅰ												□			
		開講期		開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限	水5	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		中国文学論Ⅱ												□			
		開講期	—	開講期		開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限	—	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
				日本文学論Ⅰ												□	
				開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期			
				曜日・時限		曜日・時限	水3	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限			
	日本文学論Ⅱ													□			
	開講期				開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期				
	曜日・時限				曜日・時限	水2	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
	日本文学論Ⅲ													□			
	開講期				開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期				
	曜日・時限				曜日・時限	木1	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
	日本文学論Ⅳ													□			
	開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期						
	曜日・時限		曜日・時限	木3	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限						
			日本文学論Ⅴ										□				
			開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期				開講期		
			曜日・時限		曜日・時限	金4	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		□		
	選択必修	日本文学史Ⅰ												□	どちらか片方を修得する必要がある		
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		日本文学史Ⅱ												■			
		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		伝統文化演習ⅠB(書道)												□	どちらか片方を修得する必要がある。 ※「B」以外のクラスでは、教員免許状の取得要件を満たさない ※事前調整科目		
		開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限	月2	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
		伝統文化演習ⅡB(書道)												□			
		開講期		開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期					
		曜日・時限		曜日・時限	月2	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限					
伝統文化論Ⅳ(書)												□					
開講期			開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期						
曜日・時限			曜日・時限	月1	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限						
選択				日本語学Ⅲ										□	関心に応じて履修すると良い (必要単位数は、必修と選択必修だけで満たせる)。		
				開講期		開講期	春	開講期		開講期		開講期				開講期	
				曜日・時限		曜日・時限	水2	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				曜日・時限	
	日本文学研究Ⅰ													□			
	開講期				開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期				
	曜日・時限				曜日・時限	水3	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
	日本文学研究Ⅱ													□			
	開講期				開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期				
	曜日・時限				曜日・時限	水2	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
	日本文学研究Ⅲ													□			
	開講期				開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期				
	曜日・時限				曜日・時限	木1	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
	日本文学研究Ⅳ													□			
	開講期				開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期				
	曜日・時限				曜日・時限	木3	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限				
	日本文学研究Ⅴ												□				
開講期		開講期	秋	開講期		開講期		開講期		開講期							
曜日・時限		曜日・時限	金5	曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限		曜日・時限							

全学科で共通のものはシート①として作成し、各学科で異なるものはシート②として作成する。

学生の所属学科に応じて、シート①と②を組み合わせ使用する。

ちらか片方を修得する必要がある

どちらか片方を修得する必要がある。
※「B」以外のクラスでは、教員免許状の取得要件を満たさない
※事前調整科目

関心に応じて履修すると良い
(必要単位数は、必修と選択必修だけで満たせる)。

【添付資料 5（改訂 1）】

<練習用シナリオ 1> →課題分析図【160】に該当

2019 年度の教職課程正式履修の手続に来た学生から、「履修登録について質問して良いですか？教職の科目も他の科目もたくさんあって、どれから履修すれば良いのかわかりません。」という相談がありました。

学内ポータルサイトに代行ログインして学生の状況を確認したところ、下記のとおりでした。

【成績照会】（単位修得済の科目）

- ・日本語学Ⅰ
- ・日本語学Ⅱ
- ・日本語表現法ⅢB
- ・日本文学史Ⅱ
- ・日本国憲法
- ・スポーツ・健康科学演習ⅠA
- ・教職概論
- ・教育心理学

※1 年次秋学期までに修得した科目が全て表示されている。

【履修確認】（事前調整科目およびクラス割振の結果）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						SPEAKING PRACTICE P
2 限	伝統文化演 習ⅠB（書 道）		SPEAKING PRACTICE P			
3 限						
4 限					日本文化基 礎演習ⅢQ	
5 限						

集中講義	
------	--

【添付資料 5（改訂 1）】

〔練習 1〕

2019 年度の春学期と秋学期で履修すべき科目を、それぞれの時間割に記入しましょう。

（春学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						SPEAKING PRACTICE P
2 限	伝統文化演 習 I B（書 道）		SPEAKING PRACTICE P			
3 限						
4 限					日本文化基 礎演習Ⅲ Q	
5 限						

集中講義	
------	--

（秋学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						

集中講義	
------	--

【添付資料 5（改訂 1）】

〔練習 2〕

記入した時間割を見せながら、学生に説明をします。正しい説明になるように、適切な語句を記入しましょう。

（春学期）

- ・水曜 2 限は、「(①)」と「(②)」が重なり、「(②)」が優先されます。
- ・金曜 5 限は、「(③)」と「(④)」が重なり、「(④)」が優先されます。
- ・事前調整科目の「(⑤)」の申し込みをしていないため履修不可能です。
- ・「(⑥)」は、2 年次から履修可能ですが、この年度は開講されていません。
- ・「(①)」「(③)」「(⑥)」は、次年度に履修しましょう。
- ・この履修で合計 (⑦) 単位になり、CAP の (⑧) 単位まで (⑨) 単位の余裕があります。(⑨) 単位分は、関心や時間割のバランスに応じて好きな科目を履修しましょう。

（秋学期）

- ・春学期の事前調整に申し込んでいなかった「(⑤)」は、秋学期の事前調整の「(⑩)」に申し込むことで本年度中の挽回が可能です。
- ・「(⑪)」「(⑫)」は、2 年次から履修可能ですが、この年度は開講されていません。次年度に履修しましょう。

【添付資料 5（改訂 1）】

合格基準：全ての解答と正答が完全に一致していること

[練習 1 の正答]

(春学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限				日本文学論 Ⅲ		SPEAKING PRACTICE P
2 限	伝統文化演 習 I B（書 道）		SPEAKING PRACTICE P			
3 限			日本文学論 I	日本文学論 IV		
4 限				国語科教育 法 I	日本文化基 礎演習Ⅲ Q	
5 限			中国文学論 I		生徒・進路 指導論	

集中講義	教育課程論
------	-----------------------

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限	教育制度論		中国文学論 I			

集中講義	教育基礎論
------	-----------------------

【添付資料 5（改訂 1）】

〔練習 2 の正答〕

（春学期）

- ・水曜 2 限は、「(① 日本文学論Ⅱ)」と「(② SPEAKING PRACTICE P)」が重なり、「(②)」が優先されます。
- ・金曜 5 限は、「(③ 日本文学論Ⅴ)」と「(④ 日本文化基礎演習ⅢQ)」が重なり、「(④)」が優先されます。
- ・事前調整科目の「(⑤ 情報処理Ⅰ)」の申し込みをしていないため履修不可能です。
- ・「(⑥ 国語科教育法Ⅲ)」は、2 年次から履修可能ですが、この年度は開講されていません。
- ・「(①)」「(③)」「(⑥)」は、次年度に履修しましょう。
- ・この履修で合計 (⑦ 18) 単位になり、CAP の (⑧ 24) 単位まで (⑨ 6) 単位の余裕があります。(⑨) 単位分は、関心や時間割のバランスに応じて好きな科目を履修しましょう。

（秋学期）

- ・春学期の事前調整に申し込んでいなかった「(⑤)」は、秋学期の事前調整の「(⑩ 情報処理Ⅱ)」に申し込むことで本年度中の挽回が可能です。
- ・「(⑪ 国語科教育法Ⅱ)」「(⑫ 総合的な学習の時間の指導法)」は、2 年次から履修可能ですが、この年度は開講されていません。次年度に履修しましょう。

	開講情報		履修計画						修得済	備考
	【2019】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
教職課程に関する科目	教職概論								■	・正式履修の前提科目 ・教育実習の前提科目
	開講期	春								
	曜日・時限	月・5								
	教育課程論								□	・教育実習の前提科目
	開講期	春		●						
	曜日・時限	集中								
	(国語)科教育法Ⅰ								□	・教育実習の前提科目
	開講期	春		●						
	曜日・時限	木・4								
	(国語)科教育法Ⅲ								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	生徒・進路指導論									教育実習の前提科目
	開講期	春		●						
	曜日・時限	金5								
	特別支援教育概論									
	開講期	春		●						
	曜日・時限	集中								
	道徳教育指導論									
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	教育方法・技術									
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	教育相談									
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	教育心理学								■	・正式履修の前提科目 ・教育実習の前提科目
	開講期	秋								
	曜日・時限	金・5								
	教育制度論								□	
	開講期	秋		●						
	曜日・時限	月・5								
	教育基礎論								□	・教育実習の前提科目
	開講期	秋		●						
	曜日・時限	集中								
	(国語)科教育法Ⅱ								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	総合的な学習の時間の指導法								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	(国語)科教育法Ⅳ								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	特別活動指導論								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	教職実践演習(中・高)								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
	教育実習Ⅰ・Ⅱ								□	
	開講期	—								
	曜日・時限	—								
66条の6科目	日本国憲法								■	
	開講期	春								
	曜日・時限	水・3								
	SPEAKING PRACTICE								□	どのクラスでも良いが、クラスの選択は不可能。 ※C学科のみ1年次配当
	開講期	春		●						
	曜日・時限	(クラス指定)								
	スポーツ・健康科学演習ⅠorⅡ								■	どのクラスでも良い。
	開講期	春・秋								
	曜日・時限	(多数)								
	情報処理ⅠorⅡ								□	どのクラスでも良い。 ※事前調整科目
	開講期	春・秋		(春)						
	曜日・時限	(抽選)		—						
	介護等体験								□	

次の3点を満たす科目に「●」がつく。
 ・修得済ではない
 ・当年度に開講されている
 ・配当年次に達している

「●」がついた科目が、履修できる科目ということになる。事前登録済の科目の時間割との重複を考慮し、本年度の履修可否を検討する。

		開講情報		履修計画						修得済	備考
		【2019】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
ゼミ	教科に関する専門的事項	日本文化演習 I～IV【 】								☐	
		日本語学 I								☒	
		開講期	春								
		曜日・時限	金・1								
		日本語表現法Ⅲ								☒	
		開講期	春・秋								
		曜日・時限	土・1								
		日本文学論 I								☐	
		開講期	春								
		曜日・時限	水・3		●						
		日本文学論 II								☐	
		開講期	春		●						
		曜日・時限	水・2								
		日本文学論Ⅲ								☐	
		開講期	春		●						
		曜日・時限	木・1								
		日本文学論Ⅳ								☐	
		開講期	春		●						
		曜日・時限	木・3								
		日本文学論Ⅴ								☐	
		開講期	春		●						
		曜日・時限	金・4								
		日本語学Ⅱ								☒	
		開講期	秋								
		曜日・時限	金・1								
		中国文学論 I								☐	※隔年開講
		開講期	秋		●						
		曜日・時限	水・5								
		中国文学論Ⅱ								☐	※隔年開講
		開講期	—		—						
		曜日・時限	—								
	選択必修	日本文学史 I								☐	どちらか片方を修得する必要がある。
		開講期	春								
		曜日・時限	金・2								
		日本文学史Ⅱ								☒	
		開講期	秋								どちらか片方を修得する必要がある。 ※「B」以外のクラスでは、教員免許状の取得要件を満たさない ※事前調整科目
		曜日・時限	金・4								
		伝統文化演習 I B(書道)								☐	
		開講期	春		●						
		曜日・時限	月・2								関心に応じて履修すると良い (必要単位数は、必修と選択必修だけで満たせる)。
		伝統文化演習Ⅱ B(書道)								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	月・2								
	選択	日本語学Ⅲ								☐	
		開講期	春								
		曜日・時限	水・2								
		伝統文化論Ⅳ(書)								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	月・1								
		日本文学研究 I								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	水・3								
		日本文学研究Ⅱ								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	水・2								
		日本文学研究Ⅲ								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	木・1								
		日本文学研究Ⅳ								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	木・3								
		日本文学研究Ⅴ								☐	
		開講期	秋								
		曜日・時限	金・5								

<練習 2－1>

学生から「4年生なのですが、書道の履修を忘れていました。教員免許は、もう無理でしょうか・・・？」という相談がありました。最初にすべきことは何でしょうか？

[選択肢]

- A. 教員免許状の取得が不可能なことを伝える
- B. 学科事務室へ電話する
- C. 東京都教育委員会へ電話する
- D. 学生から学籍番号をきく

[正解]

- D. 学生から学籍番号をきく

[解説]

回答や行動の前に、学生の状況を正しく認識しなければなりません。学籍番号は、学生の各種情報を調べるためのキーです。

<練習 2－2>

学籍番号を尋ねたところ、「19-361-XXX」だとわかりました。次にすべきことは何でしょうか？

[選択肢]

- A. 学生名簿で氏名を確認する
- B. 学内ポータルサイトで代行ログインする
- C. 『教職課程履修の手引』を開く
- D. 『学生便覧』を開く

[正解]

- B. 学内ポータルサイトで代行ログインする

[解説]

学内ポータルサイトの代行ログイン機能は、学生が見ている画面と全く同じものを確認することができます。学生がどのような状況で相談に至ったのか把握するために役立ちます。

<練習 2－3>

学内ポータルサイトで代行ログインすると、画面が学生用に切り替わりました。次にすべきことは何でしょうか？

[選択肢]

- A. 「教務掲示一覧」を開く
- B. 「シラバス検索」を開く
- C. 「履修登録」を開く
- D. 「成績照会」を開く

[正解]

- D. 「成績照会」を開く

[解説]

「成績照会」画面で、学生が修得済の科目を確認できます。ただし、成績確定前は、直近の学期で履修している科目が表示されません。その場合は、「履修確認」で表示されている科目も併せて確認しましょう。

<練習 2－4>

「成績照会」を開くと、学生の状況は下記のとおりでした。次にすべきことは何でしょうか？

【成績照会】（単位修得済の科目）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ・ 日本語学Ⅰ | ・ 国語科教育法Ⅲ |
| ・ 日本語学Ⅱ | ・ 国語科教育法Ⅳ |
| ・ 日本語表現法Ⅲ | ・ 教職概論 |
| ・ 中国文学論Ⅰ | ・ 教育心理学 |
| ・ 中国文学論Ⅱ | ・ 教育基礎論 |
| ・ 日本文学論Ⅰ | ・ 教育課程論 |
| ・ 日本文学論Ⅱ | ・ 教育制度論 |
| ・ 日本文学論Ⅲ | ・ 道德教育指導論 |
| ・ 日本文学論Ⅳ | ・ 特別支援教育概論 |
| ・ 日本文学論Ⅴ | ・ 総合的な学習の時間の指導法 |
| ・ 日本文学史Ⅰ | ・ 特別活動指導論 |
| ・ 日本国憲法 | ・ 教育方法・技術 |
| ・ スポーツ・健康科学演習ⅡB | ・ 生徒・進路指導論 |
| ・ 情報処理ⅠD | ・ 教育相談 |
| ・ SPEAKING PRACTICE | ・ 教職実践演習（中・高） |
| ・ 国語科教育法Ⅰ | ・ 教育実習Ⅰ |
| ・ 国語科教育法Ⅱ | ・ 教育実習Ⅱ |

※秋学期の成績まで確定しており、4年間で修得した全科目が表示されている。

[選択肢]

- A. 「高免判定シート」で科目を照合する
- B. 「履修指導シート」で科目を照合する
- C. 学科事務室に取り次ぐ
- D. 教職課程主任に相談する

[正解]

- A. 「高免判定シート」で科目を照合する

[解説]

必要な科目の履修忘れなので、中免・高免の両方の取得ができないことは明らかなです。高免だけでも取得可能か、「高免判定シート」で判定しましょう。

<練習 2－5>

「高免判定シート」で照合したところ、結果がわかりました。高免だけの取得が可能か不可能か、どちらでしょうか？

[選択肢]

- A. 高免だけの取得が可能
- B. 高免だけの取得が不可能

[正解]

- B. 高免だけの取得が不可能

[解説]

必要な科目が 1 つ足りていません。高免に書道は不要ですが、この 1 科目分は他の科目が必要になります。選択科目を 1 つでも修得していたら、高免の取得が可能でした。

卒業後に、本学の科目等履修で「日本語学Ⅲ」「日本文学研究Ⅰ～Ⅴ」のいずれかを修得すれば、高免が取得できることを伝えると良いでしょう。

なお、「書道」は本学の科目等履修の対象外なので、卒業後に本学で中免の取得要件を満たすことはできません。本学で中免まで取得したい場合は、留年するしかありません。

①A～Dの科目を全て修得していること

[illegible]

	【A学科】	【B学科】	【C学科】
E	☐ 日本文学史Ⅰ orⅡ ※Dでカウントしていない方	☐	☐
	☒ 国語科教育法Ⅱ	☐	☐
	☒ 国語科教育法Ⅲ	☐	☐
	☐ 日本語学Ⅲ	4科目しか修得していない ↓ 条件②を満たさないで、高等学校教諭免許状の取得が「不可能」であることがすぐにわかる。	
	☐ 日本文学研究Ⅰ		
	☐ 日本文学研究Ⅱ		
	☐ 日本文学研究Ⅲ		
	☐ 日本文学研究Ⅳ		
	☐ 日本文学研究Ⅴ		
	☒ 道德教育指導論	☐	☐
☒ 教育実習Ⅱ	☐	☐	

【添付資料6（改訂1）】

<練習用シナリオ2> →課題分析図【231】に該当

春学期の履修登録期間に、学生から「来月から教育実習なんですが、2週間で申し込んでいたことに気付きました。実習校に相談してみましたが、今からの実習期間変更は無理だそうです。もう教員免許状は取れませんか？」という相談がありました。

学内ポータルサイトに代行ログインして学生の状況を確認したところ、下記のとおりでした。

【成績照会】（単位修得済の科目）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ・ 日本語学Ⅰ | ・ 国語科教育法Ⅱ |
| ・ 日本語学Ⅱ | ・ 国語科教育法Ⅲ |
| ・ 日本語表現法Ⅲ | ・ 国語科教育法Ⅳ |
| ・ 中国文学論Ⅰ | ・ 教職概論 |
| ・ 中国文学論Ⅱ | ・ 教育心理学 |
| ・ 日本文学論Ⅰ | ・ 教育基礎論 |
| ・ 日本文学論Ⅱ | ・ 教育課程論 |
| ・ 日本文学論Ⅲ | ・ 教育制度論 |
| ・ 日本文学論Ⅳ | ・ 道德教育指導論 |
| ・ 日本文学論Ⅴ | ・ 特別支援教育概論 |
| ・ 日本文学史Ⅱ | ・ 総合的な学習の時間の指導法 |
| ・ 日本国憲法 | ・ 特別活動指導論 |
| ・ スポーツ・健康科学演習ⅡB | ・ 教育方法・技術 |
| ・ 情報処理ⅠD | ・ 生徒・進路指導論 |
| ・ SPEAKING PRACTICE | ・ 教育相談 |
| ・ 国語科教育法Ⅰ | |

※3年次秋学期までに修得した科目が全て表示されている。

【履修確認】（事前調整科目およびクラス割振の結果）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						
2限						
3限						
4限			日本文化演 習Ⅲ○			
5限						

集中講義	
------	--

【添付資料 6（改訂 1）】

〔練習 1〕

春学期と秋学期で履修すべき科目を、それぞれの時間割に記入しましょう。

ただし、検討にあたって、次の条件で取り組んでください（「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「教職実践演習（中・高）」は未開講のため、実在のシラバスから情報を得ることができません）。

- ・開講情報は 2019 年度を使用する。
- ・「教育実習Ⅰ」と「教育実習Ⅱ」は、「通年、集中」で開講されるものとする。
- ・「教職実践演習（中・高）」は、「秋学期、水・5」で開講されるものとする。
- ・この学生は、介護等体験を 3 年次に完了している。

（春学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限						
4 限			日本文化演習Ⅲ〇			
5 限						

集中講義	
------	--

（秋学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						

集中講義	
------	--

【添付資料6（改訂1）】

〔練習2〕

記入した時間割を見せながら、学生に説明をします。正しい説明になるように、適切な語句を記入しましょう。

（春学期）

- ・教育実習が2週間の場合は「(①)」のみ、3週間の場合は「(①)」と「(②)」の履修登録が必要です。
- ・春学期に(③)の2科目を修得できれば、秋学期の履修は「(④)」のみです。

（秋学期）

- ・春学期に(③)の修得に失敗しても、秋学期に5つある「(⑤)」の中から不足分を修得すれば大丈夫です。
- ・「(⑥)」と「(⑦)」も秋学期に履修可能ですが、これらは中免用の科目です。修得しても高免取得のための単位数には含まれませんので注意してください。

【添付資料 6（改訂 1）】

合格基準：全ての解答と正答が完全に一致していること

[練習 1 の正答]

(春学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限			日本語学Ⅲ		日本文学史Ⅱ	
3 限						
4 限			日本文化演習Ⅲ○			
5 限						

集中講義	教育実習Ⅰ
------	-----------------------

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限			教職実践演習(中・高)			

集中講義	教育実習Ⅰ
------	-----------------------

【添付資料6（改訂1）】

〔練習2の正答〕

（春学期）

- ・教育実習が2週間の場合は「(① 教育実習Ⅰ)」のみ、3週間の場合は「(①)」と「(② 教育実習Ⅱ)」の履修登録が必要です。
- ・春学期に(③ 教科に関する専門的事項)の2科目を修得できれば、秋学期の履修は「(④ 教職実践演習(中・高))」のみです。

（秋学期）

- ・春学期に(③)の修得に失敗しても、秋学期に5つある「(⑤ 日本文学研究)」の中から不足分を修得すれば大丈夫です。
- ・「(⑥ 伝統文化演習ⅡB(書道))」と「(⑦ 伝統文化論Ⅳ(書))」も秋学期に履修可能ですが、これらは中免用の科目です。修得しても高免取得のための単位数には含まれませんので注意してください。

以下の①と②の両方を満たしていれば、高等学校教諭免許状のみの取得が可能です。

①A～Dの科目を全て修得していること

A : 「教育実践に関する科目」		
(全学科共通)		
☐ 教育実習 I ※実習期間2週間 ☐ 教職実践演習(中・高)		
B : 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」		
(全学科共通)		
☒ 日本国憲法 ☒ スポーツ・健康科学演習 I or II ☒ 情報処理 I or II ☒ SPEAKING PRACTICE		
C : 「教育の基礎的理解に関する科目」 および「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」		
(全学科共通)		
☒ 教職概論 ☒ 教育心理学 ☒ 教育基礎論 ☒ 教育課程論 ☒ 教育制度論 ☒ 特別支援教育概論 ☒ 総合的な学習の時間の指導法 ☒ 特別活動指導論 ☒ 教育方法・技術 ☒ 生徒・進路指導論 ☒ 教育相談		
D : 「教科及び教科の指導法に関する科目」で必修になっている科目		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
☒ 国語科教育法 I	☐	☐
☒ 国語科教育法 IV	☐	☐
☒ 日本語学 I	☐	☐
☒ 日本語学 II	☐	☐
☒ 日本語表現法 III	☐	☐
☒ 中国文学論 I	☐	☐
☒ 中国文学論 II	☐	☐
☒ 日本文学論 I	☐	☐
☒ 日本文学論 II	☐	☐
☒ 日本文学論 III	☐	☐
☒ 日本文学論 IV	☐	☐
☒ 日本文学論 V	☐	☐
☒ 日本文学史 I or II	☐	☐

両科目とも4年次配当なので、これから履修登録すれば条件を満たせることがわかる。

②Eの科目の中から5科目以上修得していること

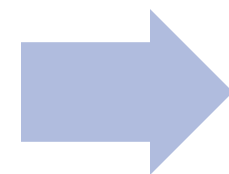
E : 「教科及び教科の指導法に関する科目」で選択になっている科目 および「大学が独自に設定する科目」として認定される科目		
【A学科】	【B学科】	【C学科】
☐ 日本文学史 I or II ※Dでカウントしていない方	☐	☐
☒ 国語科教育法 II	☐	☐
☒ 国語科教育法 III	☐	☐
☐ 日本語学 III	☐	☐
☐ 日本文学研究 I	現時点で3科目しか修得していないので、あと2科目以上必要なことがわかる。	
☐ 日本文学研究 II		
☐ 日本文学研究 III		
☐ 日本文学研究 IV		
☐ 日本文学研究 V		
☒ 道徳教育指導論	☐	☐
☐ 教育実習 II	☐	☐

履修指導の熟練者を目指した学習

Step1: 前提知識の修得

eラーニング教材
で学ぶ

- 教職の知識
- 教務の知識
- 資料の参照
の仕方 etc.



Step2: 対応力の向上

実際の業務で学
ぶ

- 他部署と連携
- 教員や副手と
協力
- 過去の事例
の活用 etc.

- ★履修指導シート
- ★高免判定シート
- ★練習シナリオ

履修指導業務の遂行を
支援するツールです。
Step1と2の間で、これら
の使用方法的確認や、
使用しながらの対応練
習をします。

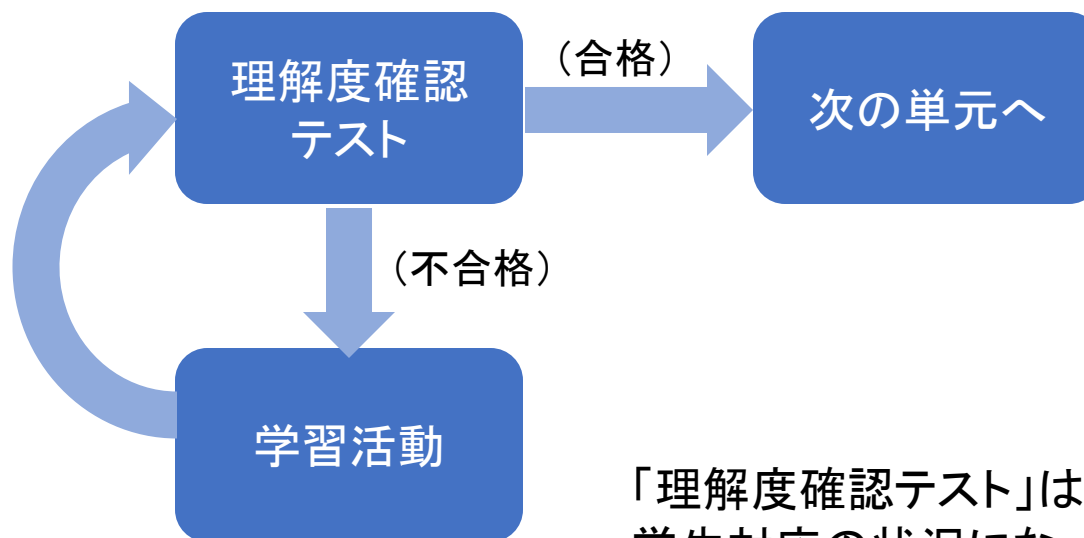
- ★相談対応フローチャート

様々な相談に対して、どのような行動
を取れば良いかわかるようにします。
慣れるまでは、これを参照しながら対
応しましょう。

※Step1は、学生対応が始まる前
(4月2週が開始する前)までに
完了しておく必要があります。

Step1: 前提知識の修得

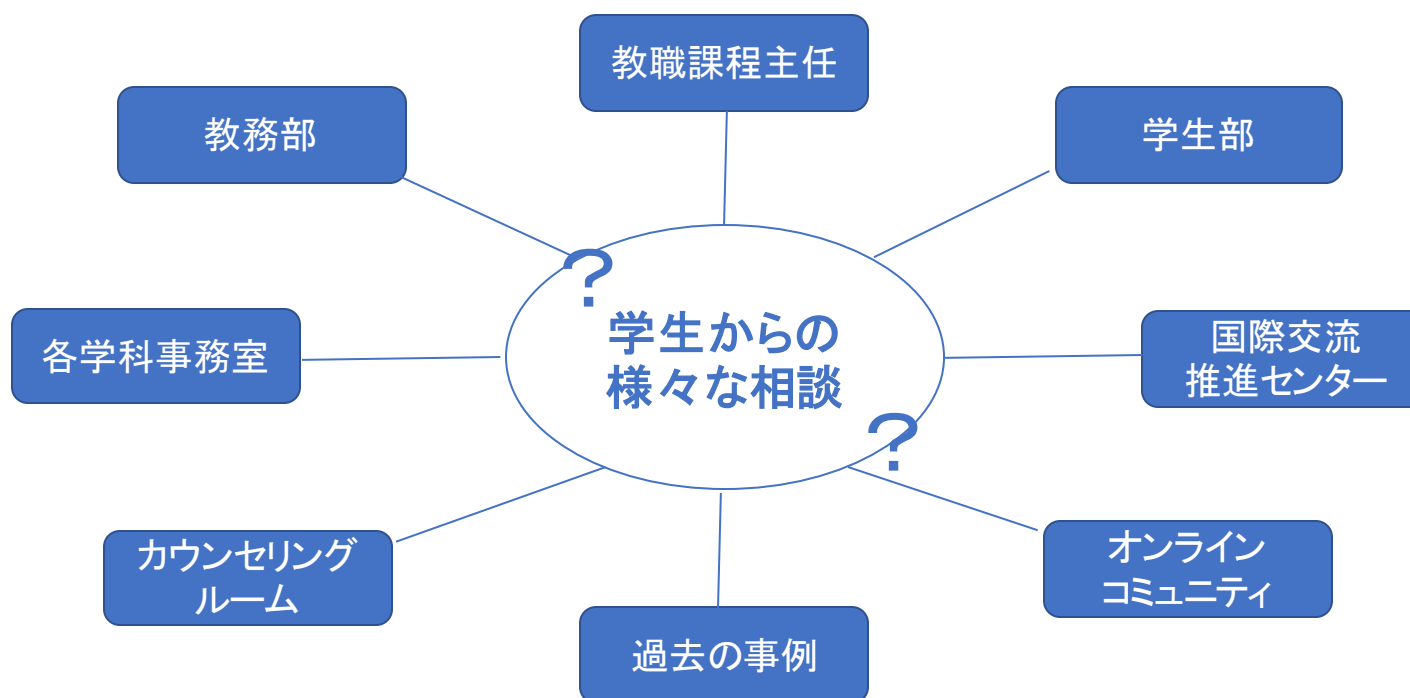
各単元を確実に修得できる学習を
自分のペースで進めましょう！



「理解度確認テスト」は、具体的な
学生対応の状況になっているため、
丸暗記ではなく実際の業務に活か
せる知識を修得できます。

Step2: 対応力の向上

周囲の力を借りたり、関連情報を調べたりしながら解決して、徐々に習熟してきましょう！



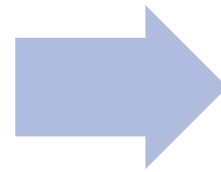
eラーニング教材で得た知識に加え、学内外のリソースを活用しながら業務を処理していくことで、継続的な学習が可能です。

教職課程履修指導の熟練者を目指した学習

Step1: 前提知識の修得

eラーニング教材
で学ぶ

- ・ 教職課程の知識
(→専門用語、教員免許状
取得までのプロセス)
- ・ 教務の知識
(→履修規定、学内の手続
や処理)
- ・ 資料の参照の仕方
etc.



Step2: 対応力の向上

実際の業務で学
ぶ

- ★履修指導シート
- ★高免判定シート
- ★練習シナリオ

履修指導業務の遂行を
支援するツールです。
(eラーニング教材の中
で使い方の確認や練習
をした上で、実際の業
務で使用しましょう。)

- ・ 他部署と連携
- ・ 教員や副手と協力
- ・ 過去の事例の活用
etc.

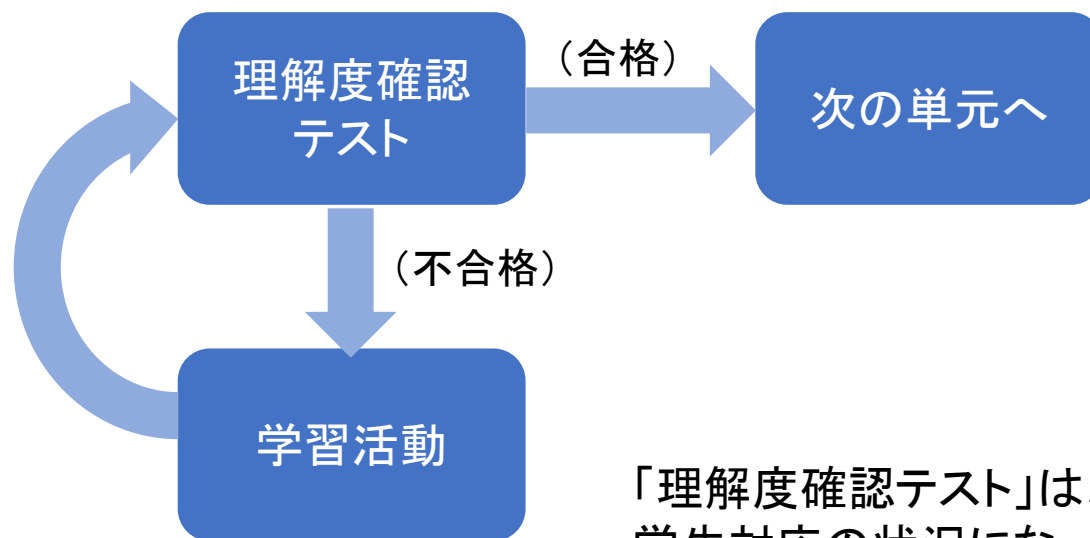
★相談対応フローチャート

相談のケースに応じて、取るべき
行動を整理した図です。
(履修指導業務に慣れるまでは、こ
れを見ながら対応しましょう)

※Step1は、学生対応が始まる前
(4月2週が開始する前)までに
完了しておく必要があります。

Step1: 前提知識の修得

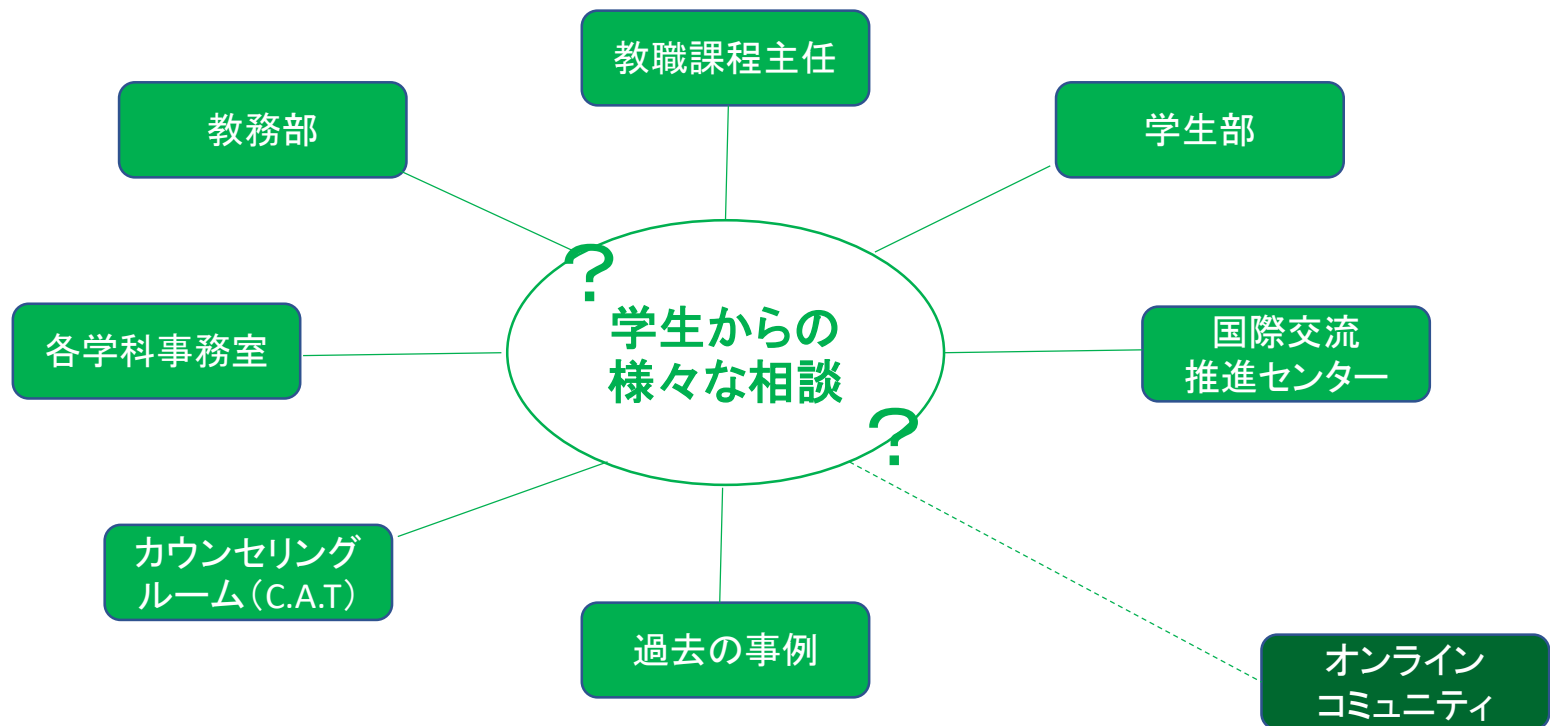
各単元を確実に修得できる学習を
自分のペースで進めましょう！



「理解度確認テスト」は、具体的な
学生対応の状況になっているため、
丸暗記ではなく実際の業務に活か
せる知識を修得できます。

Step2: 対応力の向上

周囲の力を借りたり、関連情報を調べたりしながら解決して、徐々に習熟してきましょう！



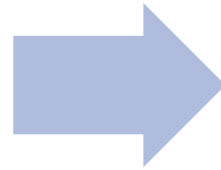
eラーニング教材で得た知識に加え、学内外のリソースを活用しながら業務を処理していくことで、継続的な学習が可能です。

教職課程履修指導の熟練者を目指した学習

Step1: 知識の修得

eラーニング教材
で学ぶ

- ・ 教職課程の知識
(→専門用語、教員免許状
取得までのプロセス)
- ・ 教務の知識
(→履修規定、学内の手続
や処理)
- ・ 資料の参照の仕方
etc.



Step2: 対応力の向上

実際の業務で学
ぶ

- ★履修指導シート
- ★高免判定シート
- ★練習用シナリオ
etc.

履修指導業務の遂行を
支援するツールです。
(eラーニング教材の中
で使い方の確認や練習
をした上で、実際の業
務で使用しましょう。)

- ・ 他部署と連携
- ・ 教員や副手と協力
- ・ 過去の事例の活用
etc.

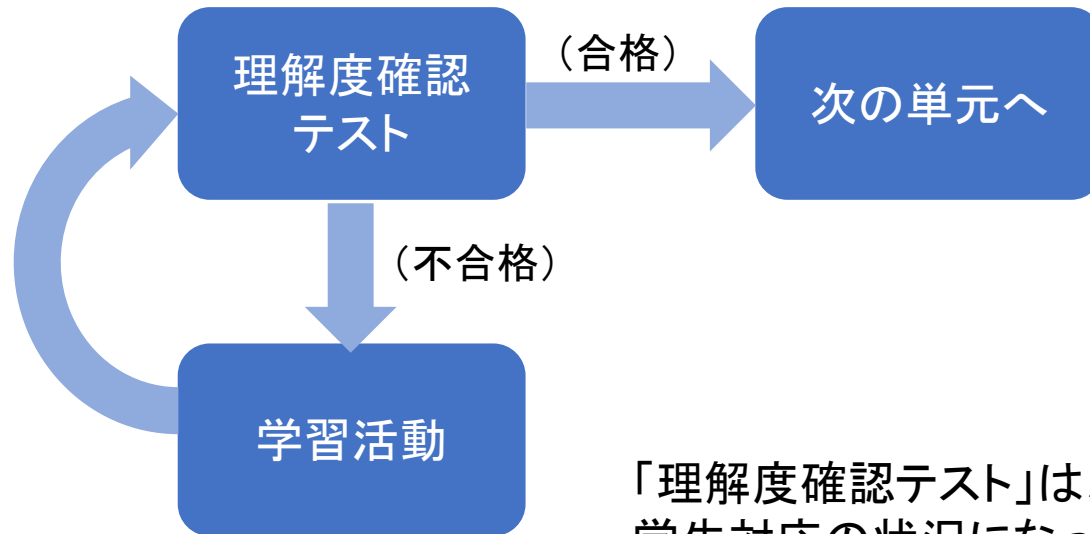
- ★相談対応早見表
- ★対応フロー

相談のケースに応じて、取るべき
行動を整理した表です。
(履修指導業務に慣れるまでは、
これを見ながら対応しましょう)

※Step1は、**8時間程度の学習**です。
学生対応が始まる前 (4月2週の開始前)
までに 完了しておく必要があります。

Step1: 知識の修得

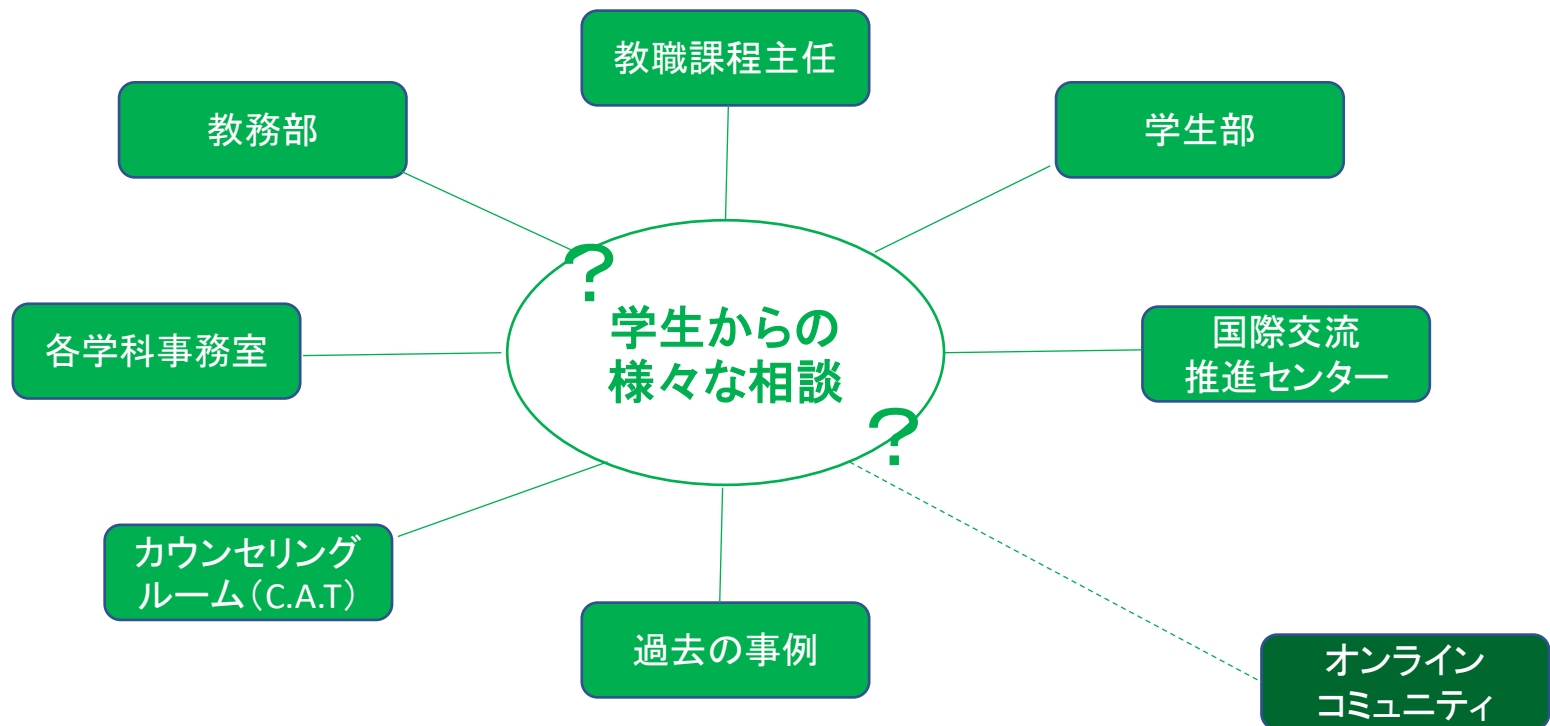
各単元を確実に修得できる学習を
自分のペースで進めましょう！



「理解度確認テスト」は、具体的な
学生対応の状況になっているため、
丸暗記ではなく実際の業務に活か
せる知識を修得できます。

Step2: 対応力の向上

周囲の力を借りたり、関連情報を調べたりしながら解決して、徐々に習熟してきましょう！



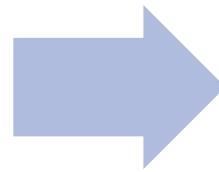
eラーニング教材で得た知識に加え、学内外のリソースを活用しながら業務を処理していくことで、継続的な学習が可能です。

教職課程履修指導の熟練者を目指した学習

Step1: 知識の修得

eラーニング教材
で学ぶ

- ・ 教職課程の知識
(→専門用語、教員免許状
取得までのプロセス)
- ・ 教務の知識
(→履修規定、学内の手続
や処理)
- ・ 資料の参照の仕方
etc.



Step2: 対応力の向上

実際の業務で学
ぶ

- ★履修指導シート
- ★高免判定シート
- ★練習用シナリオ
etc.

履修指導業務の遂行を
支援するツールです。
(eラーニング教材の中
で使い方の確認や練習
をした上で、実際の業
務で使用しましょう。)

- ・ 他部署と連携
- ・ 教員や副手と協力
- ・ 過去の事例の活用
etc.

- ★相談対応早見表
- ★対応フロー

相談のケースに応じて、取るべき
行動を整理した表です。
(履修指導業務に慣れるまでは、
これを見ながら対応しましょう)

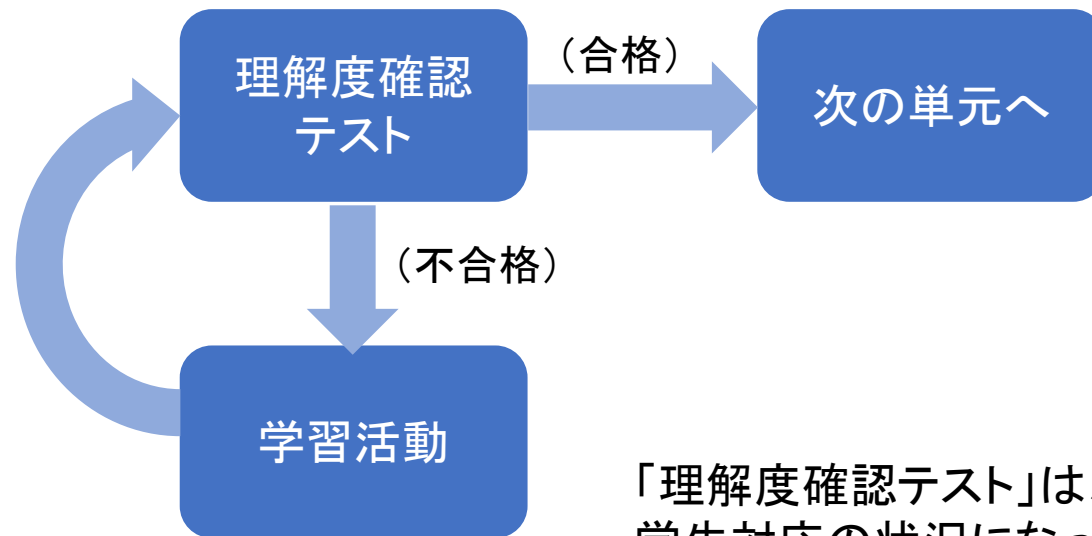
※Step1は、**10時間程度の学習**です。

学生対応が始まる前 (4月2週の開始前)までに

完了しておく必要があります。**業務時間を上手く使って進めましょう。**

Step1: 知識の修得

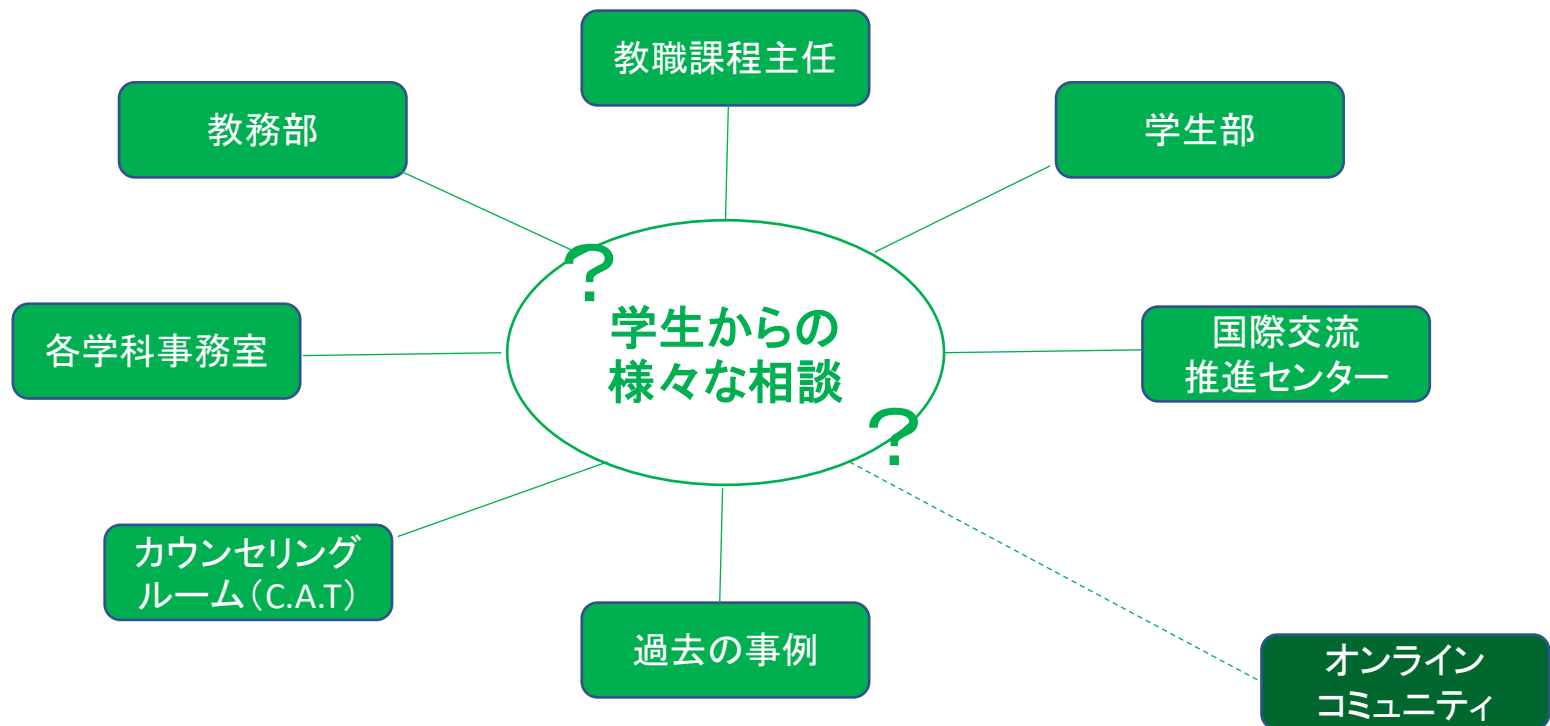
各単元を確実に修得できる学習を
自分のペースで進めましょう！



「理解度確認テスト」は、具体的な
学生対応の状況になっているため、
丸暗記ではなく実際の業務に活か
せる知識を修得できます。

Step2: 対応力の向上

周囲の力を借りたり、関連情報を調べたりしながら解決して、徐々に習熟してきましょう！



eラーニング教材で得た知識に加え、学内外のリソースを活用しながら業務を処理していくことで、継続的な学習が可能です。

大区分	中区分	小区分	対応
履修	通常	1年次春学期から教職志望	「 対応フローA 」を参照して説明する。
		1年次春学期以外から教職志望	「 対応フローB 」を参照して説明する。
	留学	詳細が決まっている(休学扱いにならない)	「 対応フローB 」を参照して説明する。
		詳細が決まっている(休学扱いになる)	「 対応フローB 」を参照して説明する。
		詳細が明らかでない	国際交流推進センター職員の協力を得ながら、詳細を明らかにする。 →明らかになったら、「 対応フローB 」を参照して説明する。
	休学	期間が決まっている	「 対応フローB 」を参照して説明する。
		期間が明らかでない	学生部職員の協力を得ながら、期間を明らかにする。 →明らかになったら、「 対応フローB 」を参照して説明する。
	転科	転科先の学科と時期が明らかである	「 対応フローA 」を参照して説明する。
		転科先の学科と時期が明らかでない	教務部職員と学科副手の協力を得ながら、詳細を明らかにする。 →明らかになったら、「 対応フローA 」を参照して説明する。
	編入学	前の大学で教職課程を履修していない	「 対応フローA 」を参照して説明する。
		前の大学で教職課程を履修している	1. 前の大学が発行した成績証明書の提出を学生に求める。 2. 教職課程主任に報告する。 3. 教職課程委員会および教務委員会で単位認定の審議をする。 →単位認定が明らかになったら、「 対応フローB 」を参照して説明する。
	単位修得が順調でない	これから履修登録の機会がある	「 対応フローC 」を参照して説明する。
		これから履修登録の機会がない	「 対応フローD 」を参照して説明する。
実習	必須	学内ポータルサイトの操作がわからない	学内ポータルサイトのマニュアル(学生用)を見て操作説明する。 →マニュアルで解決不可能な場合は、教務部職員もしくは教務経験者の職員の協力を得ながら対応する。
		学内ポータルサイトが正常に動作していない	総務部事務計算機室へ取り次ぐ。
		必修科目同士の時間割が重複している	1. 教職課程主任に報告する。 2. 各学科の教職課程委員・教務委員に学科内の時間割調整を依頼する。 3. 時間割変更を教務委員会で審議する。 4. 時間割変更を学生へ周知する。
	任意	介護等体験	「 実習関係Q&A 」を参照して説明する。
		教育実習	
学業	今後の学習に問題がある	学校インターンシップ	学生部職員の協力を得ながら対応する。 カウンセリングルーム(C.A.T)へ取り次ぐ。
		経済的な問題を抱えている	
		人間関係の問題を抱えている	

対応フローA

- 学生に学籍番号を尋ねる。（学籍番号： ）
- ↓
- 学内ポータルサイトで代行ログインする。
- ↓
- 学内ポータルサイトの「成績照会」画面を開き、印刷する。
- ↓
- 学内ポータルサイトの「履修確認」画面を開き、印刷する。
- ↓
- 『履修指導シート』を使用し、履修計画を作成する。

対応フローB

- 学生に学籍番号を尋ねる。（学籍番号： ）
- ↓
- 学内ポータルサイトで代行ログインする。
- ↓
- 学内ポータルサイトの「成績照会」画面を開き、印刷する。
- ↓
- 学内ポータルサイトの「履修確認」画面を開き、印刷する。
- ↓
- 『教職課程正式履修登録パターン』を使用し、該当するパターンを選択する。
- ↓
- 『履修指導シート』を使用し、履修計画を作成する。
- ↓
- 記入済の『教職課程正式履修登録パターン』と『履修指導シート』を保管する。
（今後、同様の事例が発生した場合の参考とする）

対応フローC

- 学生に学籍番号を尋ねる。（学籍番号： ）
 - ↓
 - 学内ポータルサイトで代行ログインする。
 - ↓
 - 学内ポータルサイトの「成績照会」画面を開き、印刷する。
 - ↓
 - 学内ポータルサイトの「履修確認」画面を開き、印刷する。
 - ↓
 - 教育実習3週間の完了、介護等体験の完了、「道德教育指導論」の修得、「書道」の修得(A学科のみ)、いずれか1つでも達成できない状況である。
- <YES>

↓

 - 『高免判定シート』を使用し、高免取得に必要な残り科目を絞り込む。
 - ↓
 - 『履修指導シート』を使用し、高免のみに絞り込んだ科目を取得する履修計画を作成する。

<NO>

↓

 - 『履修指導シート』を使用し、履修計画を作成する。

対応フローD

- 学生に学籍番号を尋ねる。（学籍番号： ）
- ↓
- 学内ポータルサイトで代行ログインする。
- ↓
- 学内ポータルサイトの「成績照会」画面を開き、印刷する。
- ↓
- 『高免判定シート』を使用し、**高免のみの取得可否**を判別する。
- ↓
- 『本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法』を使用し、不足科目の補い方を説明する。

教職課程履修パターン

【添付資料9】

A-1

1年次春学期から教職志望【A学科、B学科】

※教育実習はどちらかの学期のみ

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)			介護等体験	教育実習(※)	教育実習(※)

A-2

1年次春学期から教職志望【C学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)	海外研修		介護等体験	教育実習(※)	教育実習(※)

→教職課程履修者は、秋学期のグループになるように予め調整される

B-1

1年次秋学期から教職志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	「教育心理学」	「教職概論」		(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験

B-2

1年次秋学期から教職志望【C学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	「教育心理学」	「教職概論」	海外研修	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験

C-1

教職を再志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」			「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験

C-2

教職を再志望【C学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」		海外研修(☆)	「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験

☆例外的に春学期のグループになるように、学科に調整してもらう必要がある
海外研修のグループ発表前までに学生から相談がないと対応できない

D

2年次春学期から教職志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
		「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験

C学科は、2年次から教職志望では4年間での教員免許状取得に間に合わない(2年次の半年間の海外研修が必須のため)

E

2年次秋学期までに前提科目を履修できなかった場合【全学科】、前の大学で教職課程を未履修の編入学者

1・2年次		3年次		4年次		5年目	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
		「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験

「教育実習」の前提科目を4年次に修得しきれない場合は、「教育実習」が6年目以降に持ち越しとなる

A-1

1年次春学期から教職志望【A学科、B学科】

※教育実習はどちらかの学期のみ

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)			介護等体験	教育実習(※)	教育実習(※)
(留学不可能)	(留学不可能)					(留学不可能)	(留学不可能)

→2年次～3年次の間で連続した2学期まで留学可能

A-2

1年次春学期から教職志望【C学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)	海外研修		介護等体験	教育実習(※)	教育実習(※)
(留学不可能)	(留学不可能)		(留学不可能)		(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

→2年次春学期もしくは3年次春学期の片方のみ留学可能

B-1

1年次秋学期から教職志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	「教育心理学」	「教職概論」		(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)		(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

→この学期のみ留学可能

B-2

1年次秋学期から教職志望【C学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	「教育心理学」	「教職概論」	海外研修	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

C-1

教職を再志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」			「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験
(留学不可能)	(留学不可能)		(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

→この学期のみ留学可能

C-2

教職を再志望【C学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
「教職概論」		海外研修(☆)	「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

☆例外的に春学期のグループになるように、学科に調整してもらう必要がある
海外研修のグループ発表前までに学生から相談がないと対応できない

D

2年次春学期から教職志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
		「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

C学科は、2年次から教職志望では4年間での教員免許状取得に間に合わない(2年次の半年間の海外研修が必須のため)

E

2年次秋学期までに前提科目を履修できなかった場合【全学科】、前の大学で教職課程を未履修の編入学者

1・2年次		3年次		4年次		5年目	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
		「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)		教育実習(※)	教育実習(※) 介護等体験
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

「教育実習」の前提科目を4年次に修得しきれない場合は、「教育実習」が6年目以降に持ち越しとなる

区分	学科	科目名	方法	備考
教職課程に関する科目	—	全科目	通信制の教職課程がある大学で修得する	文部科学省ホームページの「免許資格を取得することのできる大学」の「通信課程」から該当の大学を探し、該当の大学へ詳細を問い合わせる。
教科に関する専門的事項	A	書道以外	本学の科目等履修で不足科目を修得する	
		書道	本学に入学し直す	本学では科目等履修の対象外になっている。
	B	全科目	本学の科目等履修で不足科目を修得する	
	C	全科目	本学の科目等履修で不足科目を修得する	
66条の6科目	—	日本国憲法	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	
		スポーツ・健康科学演習	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	本学では科目等履修の対象外になっている。
		SPEAKING PRACTICE	—	全学科で卒業要件になっている。 (＝卒業時に未修得は発生しない)
		情報処理	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	
介護等体験	—	—	通信制の教職課程がある大学で申し込む	介護等体験は個人での申し込みができないため、大学を経由する必要がある。

区分	学科	科目名	方法	備考
教職課程に関する科目	—	全科目	通信制の教職課程がある大学で修得する	・文部科学省ホームページの「免許資格を取得することのできる大学」の「通信課程」から該当の大学を探し、該当の大学へ詳細を問い合わせる。 ・本学では科目等履修の対象外になっている。
教科に関する専門的事項	A	書道以外	本学の科目等履修で不足科目を修得する	
		書道	本学に入学し直す	本学では科目等履修の対象外になっている。
	B	全科目	本学の科目等履修で不足科目を修得する	
	C	全科目	本学の科目等履修で不足科目を修得する	
66条の6科目	—	日本国憲法	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	
		スポーツ・健康科学演習	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	本学では科目等履修の対象外になっている。
		SPEAKING PRACTICE	—	全学科で卒業要件になっている。 (=卒業時に未修得は発生しない)
		情報処理	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	
介護等体験	—	—	・通信制の教職課程がある大学で申し込む ・本学の科目等履修生になる(履修する科目は問わない)	介護等体験は個人での申し込みができないため、大学を経由する必要がある。 (=いずれかの大学の学籍が必要となる)

介護等体験

No.	質問	回答
1	3年次から教職課程を正式履修する場合、介護等体験はいつになるか？	4年次に教育実習と併せて行う。介護等体験は不可能週を指定できるため、教育実習と重複しないための調整が可能である。
2	介護等体験の前に「特別支援教育概論」を履修しておく必要があるか？	体験にあたっての前提条件になっているわけではないが、関連する知識なので事前に修得しておくことが望ましい。
3	介護等体験に必要な手続は何か？	介護等体験ガイダンス(事前に何回か開催する)の全てに必ず出席すること。全員に共通の手続はガイダンス内で説明する。実習先によって手続が異なるものは、学生へ個々に連絡する。
4	費用は発生するか？	体験年度の4月に、介護等体験費を本学へ納入する必要がある。また、体験先までの交通費や食事代は自己負担となる。
5	体験先は自分で選べるか？	自分で選ぶことはできない。本学が発表した体験先・期間で行うこと。
6	体験期間はいつ頃になるか？	特別支援学校は5～3月の中に2日間、社会福祉施設は8～3月の中に5日間の体験になる。
7	体験不可能な期間があるが、どうすれば良いか？	体験不可能期間の指定ができるため、所定の書式に記入して提出すること。原則として正課活動(授業や留学等)のみを不可能理由として認め、その他のものは事情を考慮して決定する。
8	健康診断と細菌検査の証明書は、どのように用意すれば良いか？	健康診断証明書は本学で発行するので、学生部に申し出ること。細菌検査が必要な場合には、外部機関に委託する検査キットを渡すので、キット内の説明に従って手続すること。
9	途中で辞退しても良いか？	相手先に迷惑がかかるため、辞退は認めない。最後までやりきる意志を持った上で申込むこと。
10	介護等体験と授業が重なった場合、どうすれば良いか？	介護等体験を優先する。授業は公認欠席の対象となるため、教務部に申し出ること。

教育実習

No.	質問	回答
1	4年次になれば教育実習の参加資格が得られるのか？	年次だけでなく前提条件を満たしている必要がある。『教職課程履修の手引』のp.15を確認すること。
2	実習校はどのように決まるか？	学生自身が母校に連絡して受入を依頼する。実習前年度の4月下旬が締切の場合もあるので、早めに行動すること。
3	費用は発生するか？	本学へ納入する費用はない。実習校への交通費や食事代は自己負担となる。なお、実習校によっては、教育実習受入費が発生し自己負担となる。詳細は実習校の説明に従うこと。
4	中学校か高等学校か、どちらにすれば良いか？	どちらでも構わないので、関心のある方に連絡すること。
5	実習期間は、春学期か秋学期か、どちらか？	どちらでも構わないので、実習校の都合の良い方にしてもらうこと。
6	母校に受入を依頼したが、断られてしまった。どうすれば良いか？	連絡していない方(中学校に断られたなら高等学校、高等学校に断られたなら中学校)へ連絡すること。両方から断られてしまった場合は、本学が仲介するので申し出ること。
7	内諾が得られた実習校へ、大学から送付される書類はあるか？	実習前年度に『教育実習内諾願』、実習年度に『教育実習受入依頼』という公文書を送付する。
8	実習校から大学側に作成を求められた書類があるが、どうすれば良いか？	作成を求められた書類を本学に提出すること。先方の決まりに従い、本学が手続を進める。
9	途中で辞退しても良いか？	相手先に迷惑がかかるため、辞退は認めない。最後までやりきる意志を持った上で申込むこと。
10	教育実習と授業が重なった場合、どうすれば良いか？	教育実習を優先する。授業は公認欠席の対象となるため、教務部に申し出ること。

学校インターンシップ

No.	質問	回答
1	学校インターンシップは教員免許状取得のために必須か？	選択科目の位置付けなので、必須ではない。学校の現場を経験できる貴重な機会なので参加を推奨する。
2	教育実習と学校インターンシップは何が違うのか？	教育実習は授業が主な目的だが、学校インターンシップは学校運営補助を主な目的としている。
3	実習期間は、春学期か秋学期か？	両学期とも開設しているため、他の授業等の予定を考慮してどちらかに申し込むこと。ただし、両学期とも、実習前年度の3月に申し込む必要がある。
4	費用は発生するか？	原則として費用は発生しない。
5	途中で辞退しても良いか？	相手先に迷惑がかかるため、辞退は認めない。最後までやりきる意志を持った上で申し込むこと。
6	学校インターンシップと介護等体験・教育実習が重なった場合、どうすれば良いか？	介護等体験・教育実習を優先する。学校インターンシップは公認欠席の対象となるため、教務部に申し出ること。

介護等体験

No.	質問	回答
1	3年次から教職課程を正式履修する場合、介護等体験はいつになるか？	4年次に教育実習と併せて行う。介護等体験は不可能週を指定できるため、教育実習と重複しないための調整が可能である。
2	介護等体験の前に「特別支援教育概論」を履修しておく必要があるか？	体験にあたっての前提条件になっているわけではないが、関連する知識なので事前に修得しておくことが望ましい。
3	介護等体験に必要な手続は何か？	介護等体験ガイダンス(事前に何回か開催する)の全てに必ず出席すること。 全員共通の手続(仲介機関に提出する申込書類等)は、ガイダンス内で説明する。 実習先によって手続が異なるもの(健康診断・細菌検査・食事等)は、実習先が決まり詳細が明らかになった時点で学生へ個々に連絡する。
4	費用は発生するか？	体験年度の4月に、介護等体験費を本学へ納入する必要がある。また、体験先までの交通費や食事代は自己負担となる。
5	体験先は自分で選べるか？	自分で選ぶことはできない。本学が発表した体験先・期間で行うこと。
6	体験期間はいつ頃になるか？	特別支援学校は5～3月の中に2日間、社会福祉施設は8～3月の中に5日間の体験になる。
7	体験不可能な期間があるが、どうすれば良いか？	体験不可能期間の指定ができるため、所定の書式に記入して提出すること。原則として正課活動(授業や留学等)のみを不可能理由として認め、その他のものは事情を考慮して決定する。
8	健康診断と細菌検査の証明書は、どのように用意すれば良いか？	健康診断証明書は本学で発行するので、学生部に申し出ること。細菌検査が必要な場合には、外部機関に委託する検査キットを渡すので、キット内の説明に従って手続すること。
9	途中で辞退しても良いか？	相手先に迷惑がかかるため、辞退は認めない。最後までやりきる意志を持った上で申込むこと。
10	介護等体験と授業が重なった場合、どうすれば良いか？	介護等体験を優先する。授業は公認欠席の対象となるため、教務部に申し出ること。

教育実習

No.	質問	回答
1	4年次になれば教育実習の参加資格が得られるのか？	年次だけでなく前提条件を満たしている必要がある。『教職課程履修の手引』のp.15を確認すること。
2	実習校はどのように決まるか？	学生自身が母校に連絡して受入を依頼する。実習前年度の4月下旬が締切の場合もあるので、早めに行動すること。
3	費用は発生するか？	本学へ納入する費用はない。実習校への交通費や食事代は自己負担となる。なお、実習校によっては、教育実習受入費が発生し自己負担となる。詳細は実習校の説明に従うこと。
4	中学校か高等学校か、どちらにすれば良いか？	どちらも構わないので、関心のある方に連絡すること。
5	実習期間は、春学期か秋学期か、どちらか？	どちらも構わないので、実習校と調整すること。
6	母校に受入を依頼したが、断られてしまった。どうすれば良いか？	連絡していない方(中学校に断られたなら高等学校、高等学校に断られたなら中学校)へ連絡すること。両方から断られてしまった場合は、本学が仲介するので申し出ること。
7	内諾が得られた実習校へ、大学から送付される書類はあるか？	実習前年度に『教育実習内諾願』、実習年度に『教育実習受入依頼』という公文書を送付する。
8	実習校から大学側に作成を求められた書類があるが、どうすれば良いか？	作成を求められた書類を本学に提出すること。先方の決まりに従い、本学が手続を進める。
9	途中で辞退しても良いか？	相手先に迷惑がかかるため、辞退は認めない。最後までやりきる意志を持った上で申込むこと。
10	教育実習と授業が重なった場合、どうすれば良いか？	教育実習を優先する。授業は公認欠席の対象となるため、教務部に申し出ること。

学校インターンシップ

No.	質問	回答
1	学校インターンシップは教員免許状取得のために必須か？	選択科目の位置付けなので、必須ではない。学校の現場を経験できる貴重な機会なので参加を推奨する。
2	教育実習と学校インターンシップは何が違うのか？	教育実習は授業が主な目的だが、学校インターンシップは学校運営補助を主な目的としている。
3	実習期間は、春学期か秋学期か？	両学期とも開設しているため、他の授業等の予定を考慮してどちらかに申し込むこと。ただし、両学期とも、実習前年度の3月に申し込む必要がある。
4	費用は発生するか？	原則として費用は発生しない。
5	途中で辞退しても良いか？	相手先に迷惑がかかるため、辞退は認めない。最後までやりきる意志を持った上で申し込むこと。
6	学校インターンシップと介護等体験・教育実習が重なった場合、どうすれば良いか？	介護等体験・教育実習を優先する。学校インターンシップは公認欠席の対象となるため、教務部に申し出ること。

＜評価用シナリオ＞

※必要なジョブエイドを使用しながら対応しましょう。

※全ての設問に正解できれば合格です。

2020 年度が始まってすぐに、新入生が窓口に来ました。

「英コミに入学したんですが、やっぱり日文が良くなったので、2 年生になるタイミングで転科しようと思ってます。それと、4 年間の内に 1 年間は留学したいと思ってます。それで教員免許状も取れますか？ 留学できる場合は、どの期間でできるか全部教えてください。」という相談です。学籍番号は「2020363XXX」のようです。

G-Port に代行ログインして学生の状況を確認したところ、下記のとおりでした。

【成績照会】（単位修得済の科目）

なし

【履修確認】（事前調整科目およびクラス割振の結果）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限	BASIC LISTENING B		BASIC READING B	SPEAKING PRACTICE B	Paragraph Writing B	BASIC READING B
2 限	SPEAKING PRACTICE B		Writing Practice B	BASIC LISTENING B		
3 限	英語コミュニケーション基 礎演習 I D					
4 限			TOEIC Basics			
5 限						

集中講義	
------	--

[問 1]

この学生は、「教職課程正式履修登録パターン」のどれに該当しますか？

[問 2]

4年間の内に、転科・留学・教員免許状取得の全てを満たすことは可能ですか？

[問 3]

学生に4年間の履修計画を説明します。正しい説明になるように、適切な語句を記入しましょう。

- ・留学の可能性を大きく左右するのは、「(①)」「(②)」「(③)」です。
- ・1年次に「(①)」「(②)」のどちらか片方でも修得できなかった場合、1年間の留学は(④)です。
- ・1年次に「(③)」を修得できなかった場合、留学できるタイミングが(⑤)つ減ります。
- ・(⑥)で留学する場合、3年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩) I・II」「(⑪)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑫)で留学する場合、2年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑪)」「(⑬)」「(⑭)」「(⑮)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑯)で留学する場合、2年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑬)」「(⑭)」「(⑮)」「(⑰)」「(⑱)」を必ず修得しなければなりません。
なお、「(⑲)」も4年次に持ち越しになります。4年次がとても大変になることが想定されます。
- ・これまでに説明した科目以外は、留学しても(⑳)回の履修機会があるため、(㉑)回は逃しても大丈夫です。CAPや他科目との兼ね合いを考慮して履修する学年・学期を決めましょう。

【添付資料 1 2】

[問 4]

4年間の履修計画をふまえて、1年次の春学期と秋学期で履修すべき科目を、それぞれの時間割に記入しましょう。

※秋学期は事前に登録される科目がないものとして、履修可能な科目を全て記入してください（この時点では、秋学期の事前に登録される科目が不明なためです）。

(春学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限	BASIC LISTENING B		BASIC READING B	SPEAKING PRACTICE B	Paragraph Writing B	BASIC READING B
2 限	SPEAKING PRACTICE B		Writing Practice B	BASIC LISTENING B	情報処理 I N	
3 限	英語コミュニケーション基礎演習 I D					
4 限		スポーツ・健康科学演習 I E	TOEIC Basics			
5 限						

集中講義	
------	--

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						

集中講義	
------	--

合格基準：全ての解答と正答が完全に一致していること

[問 1 の正答]

A－1

[問 2 の正答]

可能

[問 3 の正答]

- ・留学の可能性を大きく左右するのは、「(① 教職概論)」「(② 教育心理学)」「(③ 中国文学論Ⅱ)」です。
- ・1年次に「(①)」「(②)」のどちらか片方でも修得できなかった場合、1年間の留学は(④ 不可能)です。
- ・1年次に「(③)」を修得できなかった場合、留学できるタイミングが(⑤ 1)つ減ります。
- ・(⑥ 2年次春学期と2年次秋学期)で留学する場合、3年次に「(⑦ 国語科教育法Ⅰ)」「(⑧ 生徒・進路指導論)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨ 教職実践演習(中・高))」「(⑩ 教育実習)Ⅰ・Ⅱ」「(⑪ 中国文学論Ⅰ)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑫ 2年次秋学期と3年次春学期)で留学する場合、2年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑪)」「(⑬ 道徳教育指導論)」「(⑭ 教育方法・技術)」「(⑮ 教育相談)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑯ 3年次春学期と3年次秋学期)で留学する場合、2年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑬)」「(⑭)」「(⑮)」「(⑰ 国語科教育法Ⅳ)」「(⑱ 特別活動指導論)」を必ず修得しなければなりません。
なお、「(⑲ 介護等体験)」も4年次に持ち越しになります。4年次がとても大変になることが想定されます。
- ・これまでに説明した科目以外は、留学しても(⑳ 2)回の履修機会があるため、(㉑ 1)回は逃しても大丈夫です。CAPや他科目との兼ね合いを考慮して履修する学年・学期を決めましょう。

[問 4 の正答]

(春学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限	BASIC LISTENING B		BASIC READING B	SPEAKING PRACTICE B	Paragraph Writing B	BASIC READING B
2 限	SPEAKING PRACTICE B		Writing Practice B	BASIC LISTENING B	情報処理 I N	
3 限	英語コミュニケーション基 礎演習 I D		日本国憲法			
4 限		スポーツ・ 健康科学演 習 I E	TOEIC Basics			
5 限	教職概論					

集中講義	教育課程論
------	-----------------------

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						日本語表現 法Ⅲ B
2 限	伝統文化演 習Ⅱ B (書 道)				日本語学Ⅱ	
3 限						
4 限					日本文学史 Ⅱ	
5 限	教育制度論		中国文学論 Ⅱ		教育心理学	

集中講義	教育基礎論
------	-----------------------

<評価用シナリオB>

2019 年度の秋学期履修登録時に、4 年生から「春学期の『道德教育指導論』の単位を落としてしまいました。もう教員免許は無理ですか?」という相談がありました。学籍番号は「20XX362XXX」のようです。

G-Port に代行ログインして学生の状況を確認したところ、下記のとおりでした。

【成績照会】(単位修得済の科目)

教職概論	教育課程論
英語科教育法Ⅰ	英語科教育法Ⅲ
生徒・進路指導論	特別支援教育概論
教育方法・技術	教育相談
教育心理学	教育制度論
教育基礎論	英語科教育法Ⅱ
英語科教育法Ⅳ	総合的な学習の時間の指導法
特別活動指導論	日本国憲法
SPEAKING PRACTICE	スポーツ・健康科学演習Ⅰ
国際コミュニケーション演習Ⅰ	国際コミュニケーション演習Ⅱ
国際コミュニケーション演習Ⅲ	英語学Ⅰ(音声)
英語学Ⅲ(語彙と表現)	アメリカ文学論
イギリス文学論	英語演習ⅠA
外国語演習Ⅰ(英語圏文化)	英語学Ⅱ(文法)
英語演習ⅡA	外国語演習Ⅱ(英語圏文化)
日本文化発信英語Ⅰ	日本文化発信英語Ⅱ
アメリカ文化論Ⅰ	イギリス文化論Ⅰ
アメリカ文学研究	イギリス文学研究
アメリカ文化論Ⅱ	イギリス文化論Ⅱ

※4 年次秋学期までに修得した科目が全て表示されている。

※この学生は、介護等体験を7日間(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)完了している。

【履修確認】(事前調整科目およびクラス割振の結果)

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限					情報処理Ⅱ E	
2 限						
3 限						
4 限			国際コミュニケーション演習ⅣR			
5 限						

集中講義	教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ
------	-------------

[問 1]

この学生が高免のみの取得を目指すことは可能でしょうか？

[問 2]

秋学期に履修すべき科目を、時間割に記入しましょう。

ただし、次の条件で取り組んでください（2021 年度以降開講の科目がいくつかあり、実際のシラバスから情報を得られないためです）。

- ・「教育実習Ⅰ」と「教育実習Ⅱ」は、「通年、集中」で開講されるものとする。
- ・「教職実践演習（中・高）」は、「秋学期、水・5」で開講されるものとする。
- ・「時事英語」は、「秋学期、水・3」で開講されるものとする。

[問 3]

学生から、「もし、秋学期に履修する科目を落としてしまったら、どうすれば良いですか？ 教員免許って卒業後も取れるんですか？」と質問があった。説明として正しいものを全て選びましょう。

- ①卒業後でも取得要件を満たせば教員免許状は取得できます。
- ②「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教職実践演習（中・高）」は、いずれも本学で科目等履修できます。
- ③「道徳教育指導論」は、通信制の教職課程がある大学等で修得しましょう。
- ④「英語学Ⅳ（英語史）」と「時事英語」は、本学では科目等履修できません。
- ⑤「情報処理」は、どこの大学で科目等履修しても大丈夫です。
- ⑥「日本国憲法」は、どこの大学で科目等履修しても大丈夫です。

合格基準：全ての解答と正答が完全に一致していること

[問 1 の正答]

可能

[問 2 の正答]

(秋学期)

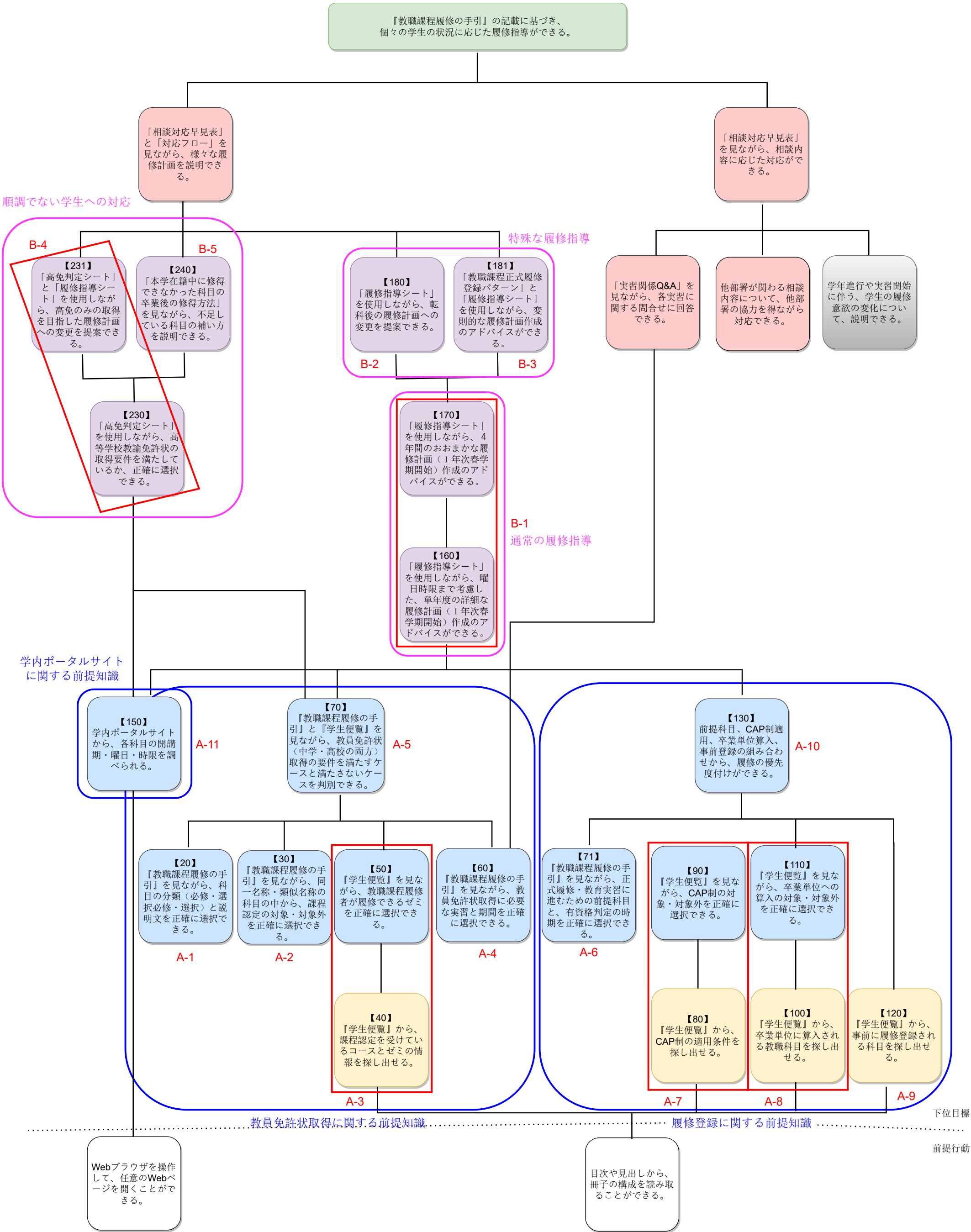
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限					情報処理Ⅱ E	
2 限					<u>英 語 学Ⅳ</u> <u>(英語史)</u>	
3 限			<u>時事英語</u>			
4 限			国際コミュニケーション演習ⅣR			
5 限			<u>教職実践演習(中・高)</u>			

集中講義	教育実習Ⅰ・Ⅱ
------	---------

[問 3 の正答]

①③⑤⑥

各学習課題と学習のプロセス



教職課程履修指導用ジョブエイド マニュアル

本書には、それぞれのジョブエイドの概要や使い方が記載されています。ジョブエイドを初めて使用する時や、使用中に使い方がわからなくなった時は、本書を読んで確認しましょう。

相談対応早見表	1
対応フロー	1
履修指導シート	2
教職課程正式履修登録パターン	5
高免判定シート	6
本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法	6
実習関係Q & A	7

2020 年 12 月作成

相談対応早見表

学生からの相談に対してどのような行動を取れば良いか、内容に応じて整理した表です。学生から相談があった時には、「大区分→中区分→小区分」の順で該当するものを選び、「対応」欄に記載されている行動を取りましょう。

大区分	中区分	小区分	対応
履修	通常	1年次春学期から教職志望	「対応フローA」を参照して説明する。
		1年次春学期以外から教職志望	「対応フローB」を参照して説明する。
	留学	詳細が決まっている(休学扱いにならない)	「対応フローB」を参照して説明する。
		詳細が決まっている(休学扱いになる)	「対応フローB」を参照して説明する。
		詳細が明らかでない	国際交流推進センター職員の協力を得→明らかになったら、「対応フローB」を
	休学	期間が決まっている	「対応フローB」を参照して説明する。
		期間が明らかでない	学生部職員の協力を得ながら、期間を→明らかになったら、「対応フローB」を
	転科	転科先の学科と時期が明らかである	「対応フローA」を参照して説明する。
		転科先の学科と時期が明らかでない	教務部職員と学科副手の協力を得ながら→明らかになったら、「対応フローA」を
	履修	前の大学で教職課程を履修していない	「対応フローA」を参照して説明する。 1. 前の大学が発行した成績証明書の

「対応」欄の記載は、対応時に使用すべきジョブエイドや既存資料を案内するようになっています。ジョブエイドや既存資料では対応困難なものについては、協力してもらう相手（部署）を案内するようになっています。対応困難なものは、周囲の力を借りながら実際の業務をこなして、徐々に対処できるようになっていきましょう。

対応フロー

相談内容に応じた処理手順を詳細に示したフローです。「相談対応早見表」で案内されたフロー（A～Dの該当するもの）を上から順に処理していき、処理が済んだら記入欄とチェック欄へ記入しましょう。正しい手順で漏れなくできるようになっています。

対応フローA
■ 学生に学籍番号を尋ねる。（学籍番号： 20XX361XXX ）
↓
■ 学内ポータルサイトで代行ログインする。
↓
■ 学内ポータルサイトの「成績照会」画面を開き、印刷する。
↓
■ 学内ポータルサイトの「履修確認」画面を開き、印刷する。
↓
□ 『履修指導シート』を使用し、履修計画を作成する。

「相談対応早見表」と「対応フロー」を参照しながら数をこなせば、次第に参照しなくてもできるようになるはずです。

履修指導シート

シート①では全学科共通の要件（教職課程に関する科目、66 条の 6 科目、介護等体験）、シート②では各学科の要件（ゼミ、教科に関する専門的事項）を一覧表にしてあります。このシートに各学生の状況を記入することにより、教員免許状に必要な要素が漏れることのない履修計画を作成できます。

セルの色分けの意味

- A. 濃い色：履修することが望ましい年次
- B. 薄い色：履修せずに持ち越しても大丈夫な年次
- C. 灰色：履修不可能な年次

（配当年次以前、もしくはその年次まで残したら 4 年間で教員免許状取得が不可能）

生徒・進路指導論		C	A	B	C				
開講期									☐
曜日・時限									
特別支援教育概論									
開講期									☐
曜日・時限									
道徳教育指導論									
開講期									☐
曜日・時限									

使用前の準備

〔シート①〕

- 「開講情報」欄の【 】年度に履修指導をする年度を入力する。
- 履修指導をする年度のシラバスから、各科目（「（ ）科教育法」を除く）を調べて「開講情報」の空欄に入力する。

※シラバス検索しても情報が出てこない（＝その年に開講されていない）科目は、「－」を入力する。

開講情報		履修計画			
【2019】年度		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
教職概論					
開講期	春				
曜日・時限	月・5				
教育課程論					
開講期	春				
曜日・時限	集中				

- シート①（全学科共通）をコピーし、国語科用のシートと英語科用のシートに分ける。

【添付資料 1 5】

4. 国語科用のシートの「() 科教育法」の()に「国語」を入力し、開講情報を入力する（英語科用のシートも同様に）。

開講情報		履修計画			
【2019】年度		1年次	2年次	3年次	4年次
教職概論					
開講期	春				
曜日・時限	月・5				
教育課程論					
開講期	春				
曜日・時限	集中				
(国語)科教育法Ⅰ					
開講期	春				
曜日・時限	木・4				
(国語)科教育法Ⅲ					
開講期	—				
曜日・時限	—				

[シート②]

1. 『学生便覧』から、教職課程履修者が選択可能なゼミを調べて「〇〇演習」の「備考」欄に記入する。

開講情報		履修計画						修得済	備考
【2019】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目		
ゼミ	A学科演習Ⅰ～Ⅳ()							☐	D、E、F、H、Q、R

2. 履修指導をする年度のシラバスから、各科目（「() 科教育法」を除く）を調べて「開講情報」の空欄を入力する。

使用方法

1. 準備が済んだ履修指導シートを印刷する。
2. 学内ポータルサイトの「代行ログイン」機能で履修指導する学生の画面を表示する。
3. 「成績照会」と「履修確認」の画面を印刷する。
4. 「成績照会」の内容を確認し、修得済の科目は履修指導シートの「修得済」欄にチェックをつけていく。

開講情報		履修計画						修得済
【2019】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目	
教職概論								
開講期	春							☒
曜日・時限	月・5							
教育課程論								
開講期	春							☒
曜日・時限	集中							

5. 履修指導シートの「修得済」欄にチェックがついていない科目を上から順に見ていき、配当年次に達している科目は、現在の年次の「履修計画」欄に「●」を記入する。

開講情報		履修計画						修得済
【2019】年度		1年次	2年次	3年次	4年次	5年目	6年目	
教職概論								■
開講期	春							
曜日・時限	月・5							
教育課程論								■
開講期	春							
曜日・時限	集中							
(国語)科教育法Ⅰ								□
開講期	春							
曜日・時限	木・4		●					

6. 「履修確認」で既に表示されている科目（＝取消や変更が不可能）と、「履修計画」欄に「●」がついた科目の曜日・時限の重複を確認する。

- ・重複しない場合 → 「履修確認」の時間割に科目名を書き込む。
- ・重複する場合 → 「●」を消し、次の年次の「履修計画」欄に「○」を記入する。

※「スポーツ・健康科学演習」のみ、この作業は行わず、次の7を行う。

（「スポーツ・健康科学演習」は多数の選択肢があり、選択肢の絞り込みには他の履修科目を先に決めておく必要があるため）

7. 「スポーツ・健康科学演習」をシラバス検索し、表示された科目（各学期に5つ程度）の曜日時限と、6で書き込み済の時間割を見比べる。

- ・重複しない科目がある場合 → 「履修確認」の時間割に科目名を書き込む。
- ・全て重複の場合 → 「●」を消し、次の年次の「履修計画」欄に「○」を記入する。

8. 配当年次が次年度以降の科目も、配当年次の「履修計画」欄に「○」を記入する。

※履修の機会が1回だけの場合は、「○」の代わりに「必」を記入する。

※留学や休学等の事情により履修できない年度は、「○」の代わりに「―」を記入する。

(国語)科教育法Ⅲ								□
開講期	―			―	必			
曜日・時限	―							
生徒・進路指導論								□
開講期	春			○				
曜日・時限	金5							

9. [シート②のみ] 3年次以上で既にゼミ登録済の場合は、選択したゼミを「○○演習」の【 】内に記入し、備考欄の記載（教職課程履修者が選択可能なゼミ）と照合する。

上記の作業の結果、「●」がついた科目は、その年度に履修すべきものを意味し、時間割に書き込まれた状態になります。「○」と「必」がついた科目は、次年度以降に履修すべきものを意味します。

教職課程正式履修登録パターン

基本的な正式履修パターン（1年次に前提科目を両方修得）から、変則的な正式履修パターンまで、発生し得るものを全て網羅した表です。学生が留学や休学等の「履修不可能期間」が発生する状況を相談してきた場合には、この表で4年間全体の流れを確認した上で「履修指導シート」を使用した履修指導を行いましょう。

「教職課程正式履修パターン」を使用することにより、履修パターンの判別と履修計画作成を別々の工程に分けることができ、対応の難易度が下がります。

使用方法

1. 学生がどの正式履修パターンに該当するか選択する。

B-1

1年次秋学期から教職志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	「教育心理学」	「教職概論」		(正式履修開始)	
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)		(留学不可能)	(留学不可能)

→この学期のみ留学可能

2. 履修不可能期間を該当箇所に記入する（履修不可能期間が発生しない場合は3へ進む）。

表に記載されている前提科目や実習と「留学」が重なった場合は、それらを次の履修可能機会までスライドさせる。

B-1

1年次秋学期から教職志望【A学科、B学科】

1年次		2年次		3年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	「教育心理学」	留学		(正式履修開始)	
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)		(留学不可能)	(留学不可能)

→この学期のみ留学可能



E

2年次秋学期までに前提科目を履修できなかった場合【全学科】、前の大学で教職課程を未履修の編入

1・2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
		「教職概論」	「教育心理学」	(正式履修開始)	
(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)	(留学不可能)

※「休学」の場合は、休学期間分を後ろにスライドさせる。

3. 1や2の結果をもとに、「履修指導シート」を使用して履修計画を作成する。

※履修不可能期間は、「履修計画」欄に「一」として記入する。

高免判定シート

中学校の教員免許状が取得不可能な場合に、高等学校の教員免許状のみ取得可能か判定するためのチェックリストです。印刷し、チェック項目を上から順にチェックしていきましょう。チェックがつかないものがあつたら、その時点で「不可能」の判定になります。シートに記載した①と②の条件を両方満たせば、「可能」の判定になります。

①A～Dの科目を全て修得していること

A :「教育実践に関する科目」
(全学科共通)
■ 教育実習 I ※実習期間2週間
■ 教職実践演習(中・高)
B :「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」
(全学科共通)
■ 日本国憲法
■ スポーツ・健康科学演習 I or II
☐ 情報処理 I or II
☐ SPEAKING PRACTICE

本学では、中学校と高等学校の両方の教員免許状を取得するように指導しているため、片方だけ取得するケースは原則として発生しません。しかし、学生が必要な科目を順調に修得できなかった場合等、稀に高等学校の教員免許状のみ取得可能なケースが発生するので、その際の判定用に使用しましょう。

なお、中学校の教員免許状の方が取得の要件が厳しいため、中学校の教員免許状の取得要件を満たせば、自然と高等学校の教員免許状の取得要件も満たします。中学校の教員免許状のみ取得可能なケースは発生しません。

本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法

学生が本学在学中に教員免許状が取得できなかった場合、卒業後どのようにすれば不足分を補うことができるか、科目ごとに整理した表です。学生が修得できなかった科目がどれに該当するか探し、「方法」欄と「備考」欄の説明を読んで対応を考えましょう。

日本国憲法	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	
スポーツ・健康科学演習	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	本学では科目等履修の対象外になっている。
SPEAKING PRACTICE	—	全学科で卒業要件になっている。 (= 卒業時に未修得は発生しない)
情報処理	任意の大学の科目等履修で不足科目を修得する	

上記の例(スポーツ・健康科学演習)なら、「任意の大学の科目等履修で不足科目を修得」&「本学では科目等履修の対象外」なので、他大学で科目等履修を募集しているところを

探すことになります。

他のジョブエイドが具体的な行動や正しい結果まで導いている点と異なり、「本学在籍中に修得できなかった科目の卒業後の修得方法」は「何を調べる必要があるか」を示すものになっています。本学内での通常の履修の枠を越えた発展的な対応になり、コントロールできない要素も多く含まれます。必要な情報を自分で調べ、わからない点は担当者に問い合わせながら解決を目指しましょう。

実習関係Q&A

教職課程の実習（介護等体験、教育実習、学校インターンシップ）について、重要な点やよくある質問を整理した表です。これらの実習についての説明は、毎年2月のガイダンスで担当教員から『教職課程履修の手引』やその年の実施要領等をもとに説明されますが、ガイダンス後に学生からの問合せが増加します。「実習関係Q&A」を参照しながら回答するようにしましょう。

介護等体験

No.	質問	回答
1	3年次から教職課程を正式履修する場合、介護等体験はいつになるか？	4年次に教育実習と併せて行う。介護等体験は不可能週を指定できるため、教育実習と重複しないための調整が可能である。
2	介護等体験の前に「特別支援教育概論」を履修しておく必要があるか？	体験にあたっての前提条件になっているわけではないが、関連する知識なので事前に修得しておくことが望ましい。

「実習関係Q&A」に載っていない質問があった場合は、教職課程の教員と検討して回答の後、表に追記していくようにしてください。

2021 年 2 月 7 日

協力者各位

熊 本 大 学 大 学 院
教授システム学専攻
浅井 佑也

業務未経験者によるトライアルについて

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は突然のお願いにもかかわらず、「大学教職課程事務初任者のための学習支援プログラムの開発 ―ジョブエイドと e ラーニングによる支援―」のトライアルにご協力くださり、誠にありがとうございます。下記のとおり、トライアルの詳細を通知させていただきます。

ご多用のところお手数をおかけして恐縮ですが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

【実施期間】

2021 年 2 月 8 日(月)～2021 年 2 月 28 日(日)

【目的】

学習支援プログラムを試用いただき、次の点を検証するためのデータを得る。

1. 学習完了までに実際にどの程度の時間を要するか
2. ジョブエイドを適切に使えるようになるか
3. ジョブエイドの効果がどの程度認められるか
4. 学習支援プログラムは満足できるものか

【方法】

- ・e ラーニング教材にログインし、上記期間内に各自のペースで学習を進める。全ての単元に合格し、評価用シナリオの解答が完了した時点でトライアル終了とする。
- ・トライアル終了後にアンケートの回答および「学習時間記録表」の提出をする（e ラーニング教材内の回答フォーム・提出フォームで行う）。

【配付物】

- ・ e ラーニング教材の URL、ログイン ID、パスワード
- ・ 冊子（『教職課程履修の手引』、『2020 年度学生便覧』）
- ・ 学習時間記録表
- ・ コピー用紙（A4） ※学習中にジョブエイドを印刷する必要があるため

【留意点】

- ・ 業務時間外の活動として協力を依頼する。
- ・ 収集したデータや意見は、形成的評価という研究目的のみに利用する。
- ・ 個人が特定される形のデータを公表することはない。個人が特定されるおそれがある内容については、特定されないように加工する。
- ・ 途中で協力の意思がなくなった時は中止しても構わない。

（本研究に協力することにより対象者が得られる利益）

- ・ 本学教職課程の履修指導業務に必要な知識を修得でき、ジョブエイドを使用できるようになる。将来、本学教職課程の担当になった場合に、すぐに業務に役立つと考えられる。

（本研究に協力することによる対象者の不利益）

- ・ 直接的な不利益は想定されない。ただし、学習やアンケート回答のための時間を要する。

以上

e ラーニング教材の URL

<https://kyoshoku.moodlecloud.com/login/index.php>

上記 URL にアクセスするとログイン画面が表示されます。

教職課程履修指導

あなたのユーザ名またはパスワードを忘れましたか?

あなたのブラウザのクッキーを有効にしてください。?

☐ ユーザ名を記憶する

ログイン

次のとおり入力してログインしてください。

ユーザ名 : *****

パスワード : *****

ログインすると、「Aパート」と「Bパート」の2コースが表示されます。「Aパート」を先に学習してください。

A-1. 科目の分類 【学習時間の目安：5分】

 今回の学習	☒
 理解度確認テスト（学習前）	☐
 科目の分類の定義	☒
 『教職課程履修の手引』での表記	☒
 理解度確認テスト（学習後）	☒

Aパートの「理解度確認テスト」、Bパートの「練習用シナリオ」に全問正解すると、点線の□の中に緑色の✓が入ります。この状態になれば、その単元は完了です。

※理解度確認テストは、「学習前」か「学習後」のどちらか片方に合格で大丈夫です。

（詳細はeラーニング教材内の「Aパートの学習について」をご覧ください）

※実線の□は、クリックすることで✓が入ります。学習の進捗の目安にしてください。使用しなくても構いません。

□に✓が入っていくと、コース選択画面に進捗状況の数字が表示されますが、100%にならなくても大丈夫です（教材の構造上、100%になることはありません）。

Miscellaneous
...

（Aパート）自習用教材

77% 完了

学習時間記録表

- ・各単元の学習の開始時刻と終了時刻をメモしておき、学習に要した時間を「実際」の欄に記入してください。
- ・単元の途中で学習を中断した場合は、中断時刻と再開時刻もメモしておき、実際の学習時間を計算できるようにしてください。
- ・終了時刻は、各単元の理解度確認テスト（もしくは練習用シナリオ）を全問正解できた時刻です。不正解の部分があり再チャレンジした場合は、再チャレンジに要した時間も含めてください。
- ・学習開始までの準備（moodle のログイン操作の時間、冒頭・末尾の説明ページを読む時間等）は含まないでください。

Aパート

単元	想定	実際
A-1. 科目の分類	5 分	
A-2. 課程認定の対象科目	10 分	
A-3. コースとゼミの選択	10 分	
A-4. 教員免許状取得に必要な実習	10 分	
A-5. 教員免許状取得可否の判別	10 分	
A-6. 前提科目と判定時期	10 分	
A-7. CAP 制の科目	10 分	
A-8. 卒業単位算入の対象科目	10 分	
A-9. 事前に履修登録される科目	10 分	
A-10. 履修の優先度付け	10 分	
A-11. 学内ポータルサイト	10 分	

Bパート

単元	想定	実際
開始前の準備	60 分	
B-1. 基本的な履修計画	60 分	
B-2. 転科時の履修計画変更	30 分	
B-3. 変則的な履修計画	80 分	
B-4. 高等学校教諭免許状のみを目指した履修	50 分	
B-5. 教員免許状を取得できなかった場合	30 分	

＜評価用シナリオA__ジョブエイド未使用＞

※ジョブエイドを使用せずに解答してください。

※『教職課程履修の手引』と『学生便覧』は参照可能です。

※答えがわからない場合は、解答欄に何も入力せずに解答完了してください。

2020 年度が始まってすぐに、新入生が窓口に来ました。

「国コミに入学したんですが、やっぱり日文が良くなったので、2 年生になるタイミングで転科しようと思ってます。それと、4 年間の内に 1 年間は留学したいと思ってます。それで教員免許状も取れますか？ 留学できる場合は、どの期間でできるか全部教えてください。」という相談です。学籍番号は「2020362XXX」のようです。

G-Port に代行ログインして学生の状況を確認したところ、下記のとおりでした。

【成績照会】（単位修得済の科目）

なし

【履修確認】（事前調整科目およびクラス割振の結果）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限	BASIC READING F			BASIC LISTENING G		
2 限	BASIC LISTENING G			BASIC READING F	伝統文化演 習 IX B（有 職故実）	
3 限				情報処理 I I		
4 限	スポーツ・健 康科学演習 I C		国際コミュ ニケーション 基礎演習 I I			
5 限						

集中講義	
------	--

[問 1]

4 年間の内に、転科・留学・教員免許状取得の全てを満たすことは可能ですか？

[問 2]

学生に 4 年間の履修計画を説明します。正しい説明になるように、適切な語句を記入しましょう。

- ・留学の可能性を大きく左右するのは、「(①)」「(②)」「(③)」です。
- ・1 年次に「(①)」「(②)」のどちらか片方でも修得できなかった場合、1 年間の留学は (④) です。
- ・1 年次に「(③)」を修得できなかった場合、留学できるタイミングが (⑤) つ減ります。
- ・(⑥) で留学する場合、3 年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4 年次に「(⑨)」「(⑩) I・II」「(⑪)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑫) で留学する場合、2 年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4 年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑪)」「(⑬)」「(⑭)」「(⑮)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑯) で留学する場合、2 年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4 年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑬)」「(⑭)」「(⑮)」「(⑰)」「(⑱)」を必ず修得しなければなりません。
なお、「(⑲)」も 4 年次に持ち越しになります。4 年次がとても大変になることが想定されます。
- ・これまでに説明した科目以外は、留学しても (⑳) 回の履修機会があるため、(㉑) 回は逃しても大丈夫です。CAP や他科目との兼ね合いを考慮して履修する学年・学期を決めましょう。

[問3]

4年間の履修計画をふまえて、1年次の春学期と秋学期で履修すべき科目を、それぞれの時間割に記入しましょう。

※秋学期は事前に登録される科目がないものとして、履修可能な科目を全て記入してください（この時点では、秋学期の事前に登録される科目が不明なためです）。

（春学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	BASIC READING F			BASIC LISTENING G		
2限	BASIC LISTENING G			BASIC READING F	伝統文化演 習IX B（有 職故実）	
3限				情報処理 I I		
4限	スポーツ・健 康科学演習 I C		国際コミュニ ケーション基礎演習 I I			
5限						

集中講義	
------	--

（秋学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						

集中講義	
------	--

合格基準：全ての解答と正答が完全に一致していること

[問 1 の正答]

可能

[問 2 の正答]

- ・留学の可能性を大きく左右するのは、「(① 教職概論)」「(② 教育心理学)」「(③ 中国文学論Ⅱ)」です。
- ・1年次に「(①)」「(②)」のどちらか片方でも修得できなかった場合、留学は(④ 不可能)です。
- ・1年次に「(③)」を修得できなかった場合、留学できるタイミングが(⑤ 1)つ減ります。
- ・(⑥ 2年次春学期と2年次秋学期)で留学する場合、3年次に「(⑦ 国語科教育法Ⅰ)」「(⑧ 生徒・進路指導論)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨ 教職実践演習(中・高))」「(⑩ 教育実習)Ⅰ・Ⅱ」「(⑪ 中国文学論Ⅰ)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑫ 2年次秋学期と3年次春学期)で留学する場合、2年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑪)」「(⑬ 道徳教育指導論)」「(⑭ 教育方法・技術)」「(⑮ 教育相談)」を必ず修得しなければなりません。
- ・(⑯ 3年次春学期と3年次秋学期)で留学する場合、2年次に「(⑦)」「(⑧)」を必ず修得しなければなりません。また、4年次に「(⑨)」「(⑩)」「(⑬)」「(⑭)」「(⑮)」「(⑰ 国語科教育法Ⅳ)」「(⑱ 特別活動指導論)」を必ず修得しなければなりません。
なお、「(⑲ 介護等体験)」も4年次に持ち越しになります。4年次がとても大変になることが想定されます。
- ・これまでに説明した科目以外は、留学しても(⑳ 2)回の履修機会があるため、(㉑ 1)回は逃しても大丈夫です。CAPや他科目との兼ね合いを考慮して履修する学年・学期を決めましょう。

[問3の正答]

(春学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限	BASIC READING F			BASIC LISTENING G		日本語表現 法ⅢA
2 限	BASIC LISTENING G			BASIC READING F	伝統文化演 習ⅨB（有 職故実）	
3 限			日本国憲法	情報処理Ⅰ Ⅰ		
4 限	スポーツ・健 康科学演習 ⅠC		国際コミュ ニケーション 基礎演習 ⅠⅠ			
5 限	教職概論					

集中講義	教育課程論
------	-----------------------

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限	伝統文化演 習ⅡB（書 道）				日本語学Ⅱ	
3 限						
4 限					日本文学史 Ⅱ	
5 限	教育制度論		中国文学論 Ⅱ		教育心理学	

集中講義	教育基礎論
------	-----------------------

＜評価用シナリオB__ジョブエイド未使用＞

※ジョブエイドを使用せずに解答してください。

※『教職課程履修の手引』と『学生便覧』は参照可能です。

※答えがわからない場合は、解答欄に何も入力せずに解答完了してください。

2019 年度の秋学期履修登録時に、4 年生から「これまでに介護等体験をしていませんでした。もしかしたら、他にも履修してない科目があるかもしれません。もう教員免許は無理ですか？ 諦めたくないです！」という相談がありました。学籍番号は「20XX361XXX」のようです。

G-Port に代行ログインして学生の状況を確認したところ、下記のとおりでした。

【成績照会】（単位修得済の科目）

教職概論	教育課程論
国語科教育法Ⅰ	国語科教育法Ⅲ
生徒・進路指導論	特別支援教育概論
教育方法・技術	教育相談
教育心理学	教育基礎論
国語科教育法Ⅱ	国語科教育法Ⅳ
総合的な学習の時間の指導法	特別活動指導論
SPEAKING PRACTICE	スポーツ・健康科学演習Ⅰ
情報処理Ⅰ	日本文化演習Ⅰ
日本文化演習Ⅱ	日本文化演習Ⅲ
日本語学Ⅰ	日本語表現法Ⅲ
日本文学論Ⅰ	日本文学論Ⅱ
日本文学論Ⅲ	日本文学論Ⅳ
日本文学論Ⅴ	日本語学Ⅱ
日本語学Ⅲ	中国文学論Ⅰ
中国文学論Ⅱ	伝統文化演習ⅠB（書道）

※4 年次秋学期までに修得した科目が全て表示されている。

※これから介護等体験に申し込むことはできない。

【履修確認】（事前調整科目およびクラス割振の結果）

（秋学期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限					日本文化演習ⅣF	
4 限						
5 限						

集中講義	教育実習Ⅰ・Ⅱ
------	---------

[問 1]

この学生が高免のみの取得を目指すことは可能でしょうか？

[問 2]

秋学期に履修すべき科目を、時間割に記入しましょう。

ただし、次の条件で取り組んでください（2021 年度以降開講の科目がいくつかあり、実際のシラバスから情報を得られないためです）。

- ・「教育実習Ⅰ」と「教育実習Ⅱ」は、「通年、集中」で開講されるものとする。
- ・「教職実践演習（中・高）」は、「秋学期、水・5」で開講されるものとする。

[問 3]

学生から、「教員免許って卒業後も取れるんですか？ 足りない科目はどうすれば取り直せますか？」と質問があった。説明として正しいものを全て選びましょう。

- ①在学中に取得要件を満たさなければ教員免許状を取得できません。
- ②「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教職実践演習（中・高）」は、いずれも通信制の教職課程がある大学等で修得しましょう。
- ③「教育制度論」は、通信制の教職課程がある大学等で修得しましょう。
- ④「日本文学史」は、本学で科目等履修しましょう。
- ⑤「日本国憲法」は、本学では科目等履修できません。
- ⑥介護等体験は、本学の科目等履修として参加できます。

合格基準：全ての解答と正答が完全に一致していること

[問 1 の正答]

不可能

[問 2 の正答]

(秋学期)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限						
2 限						
3 限					日本文化演 習Ⅳ F	
4 限					日本文学史 Ⅱ	
5 限	教育制度論		教職実践演 習 (中・高)			

集中講義	教育実習Ⅰ・Ⅱ
------	---------

[問 3 の正答]

②③④⑥

修了後アンケート

トライアルにご協力くださり、本当にありがとうございました。
今後の改善のために、アンケートのご回答をお願いいたします。

<e ラーニング教材について>

Q 1. 退屈せずに学習を進められましたか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

Q 2. 役に立つ内容だと思いましたか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

Q 3. 学習して自信を持つことができましたか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

Q 4. 学習してよかったと思いますか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

Q 5. 3週間程度（異動発表から履修登録開始まで）で完了できる分量だと思いますか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

Q 6. 1週間程度（赴任後に学習開始）で完了できる分量だと思いますか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

<ジョブエイドについて>

Q 7. 教材内の説明やマニュアルはわかりやすかったですか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う
理由：

【添付資料 2 1】

Q 8. ジョブエイドは使いやすかったですか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う

理由：

Q 9. 実際の業務でジョブエイドを使いたいですか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. そう思う 4. とてもそう思う

理由：

<全般>

Q10. 感想や意見など、自由に記入してください。